

岡山学院大学

学校教育法施行規則第 172 条 2 に基づき、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表します。

一 大学の教育研究上の目的に関すること (1号関係)

人間生活学部食物栄養学科

本学は、教育基本法、学校教育法および大学設置基準により、高等学校基礎教育の上一般の学術文化の研究を行なうとともに、我が国の少子高齢化時代に対応する栄養管理の専門教育に重きをおく大学教育を施し、よき社会人として時代の進運に応じ、地域社会の指導者たるの人材の育成するをもって目的とする。

教育目標

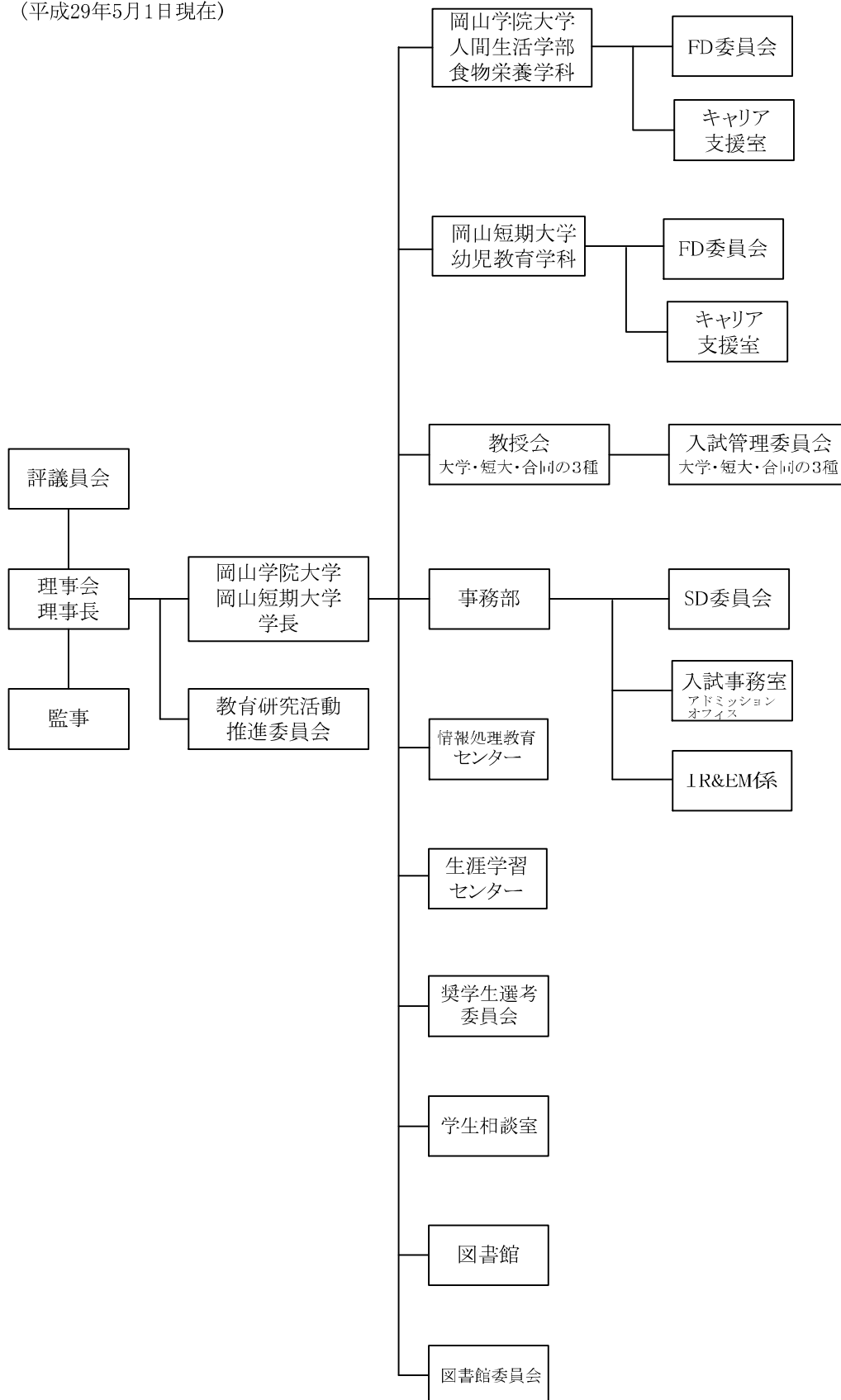
人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした管理栄養士に成長できる実力を育てるために次の教育目標を掲げている。

- 1 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- 2 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- 3 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- 4 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成

二 教育研究上の基本組織に関すること (2号関係)

教育研究上の組織図
(平成29年5月1日現在)



三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること (3号関係)

専任教員数(令和元年5月1日現在) (人)

岡山学院大学

学部	学科	教授	准教授	講師	助教	計
人間生活学部	食物栄養学科	8	3	4	1	16

岡山学院大学 教員が有する学位及び業績など

教員名	原田博史	学位	工学修士	職名	学長
-----	------	----	------	----	----

担当科目	なし	
専門分野	土木構造物の構造解析、情報処理、米国アクレディテーションシステム	
最終学歴	昭和52年3月	法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了
これまでの主な経歴	昭和52年4月 昭和59年4月 昭和59年4月 昭和60年8月 昭和61年4月 昭和61年4月 昭和62年4月 昭和63年4月 平成元年4月 平成2年4月 平成10年4月 平成14年4月 平成14年4月	会社勤務(昭和59年3月迄) 学校法人原田学園主事就任(昭和61年3月末迄) 岡山女子短期大学講師(昭和63年3月迄) 大学設置審議会の教員組織審査(岡山女子短期大学 講師 コンピュータ概論、コンピュータ演習、コンピュータ演習Ⅱ、英文タイ プⅡ(ワープロ)) 学校法人原田学園評議員、理事就任(現在に至る) 学校法人原田学園副理事長就任(平成14年4月1日迄) 学校法人原田学園法人本部長(平成2年3月31日迄) 岡山女子短期大学助教授(平成元年3月31日迄) 岡山女子短期大学(平成12年4月岡山短期大学に名称変更) 教授(現在に至る) 岡山女子短期大学副学長(平成10年3月31日迄) 岡山女子短期大学(平成12年4月岡山短期大学に名称変更) 学長(現在に至る) 岡山学院大学学長、人間生活学部学部長就任(現在に至る) 学校法人原田学園理事長就任(現在に至る)
これまでの主な業績	昭和59年4月 昭和59年12月 昭和61年4月 昭和63年9月 平成2年10月 平成6年1月 平成6年12月 平成8年3月 平成8年4月	岡山女子短期大学の全学科(家政学科・食物栄養学科・幼児教育学科)に情報処理教育を導入した。 岡山女子短期大学の英語科増設に伴ってカナダブリティッシュコロンビア州立マラスピナ・カレッジ(現バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ)との姉妹校提携を掌った。 英語科学生の姉妹校での独自の英語研修を導入した。 会計及び教学関係の殆どの事務処理の機械化を導入した。 英語科を母体とする専攻科英語秘書専攻を平成元年4月に開設する為、カリキュラムの中に姉妹校との単位互換科目を取り入れ、学生の滞在施設となる本学所有のカナダ研修センター(敷地 892.37 m ² 、延床面積 182.98 m ²)を姉妹校の所在するカナダBC州ナナイモ市に平成元年7月開設した際、購入から改修まで全て掌った。 教育の場において情報処理技術者の養成が急務となり、情報処理教育センターを新設した際、設計、設備を全て企画した。 岡山女子短期大学開学40周年史刊行した際、1年を掛けて全て編集し刊行した。 体育館を新設した際、設計、設備を全て企画した。 これまでの通年制の科目履修を改め、学習目標をたて易く、単位修得を弾力化する Semester 制を導入した。 全開講授業科目のシラバスの作成を指導し、学生に配付した。 全学をあげて大学改革を推進するため、本学独自の大学改革の標語「ニューカレッジ・フロンティアプラン(新・短期大学・最先端・構想)(NCFP)」を掲げ、教育内容・施設設備・学生生活等あらゆる面からの自己点検・評価を開始した。

	<p>平成 8 年 7 月 平成 9 年 4 月</p> <p>平成 9 年 9 月 平成 9 年 10 月</p> <p>平成 10 年 4 月</p> <p>平成 11 年 1 月</p> <p>平成 12 年 4 月 平成 12 年 5 月</p> <p>平成 12 年 12 月</p> <p>平成 13 年 4 月</p> <p>平成 13 年 9 月 平成 14 年 1 月</p> <p>平成 14 年 4 月</p>	<p>公式ホームページを開設した。</p> <p>平成 9 年後期セメスター開講授業科目のうち専任教員担当授業科目全てに授業アンケートを実施した。</p> <p>校舎内の図書館から図書館を新設した際、設計、設備を全て企画した。スター型の学内 LAN (光ケーブルの基幹 1 Km 及び支線 6 Km) を学内全域の敷設を計画し、同時に学術情報センターから JPNIC に接続すると同時に、教員研究室には授業活用の授業計画による採択方式で端末を設置した。また、学生のホームルームの全て、図書館、情報処理教育センター及び就職求人コーナー等にも端末を設置し、インターネットの活用を促進した。</p> <p>学内 LAN「OWCNET」構築により、情報処理教育科目に限らずネットワーク教育を様々な授業科目に取り入れることとした。</p> <p>授業を受けやすい環境を整備する目的で、全教室・研究室に冷暖房を整備した。</p> <p>専任教員が担当する授業科目の全てに対して、履修学生による学生の授業評価を実施し、平成 12 年度より学内にホームページで公表した。</p> <p>岡山女子短期大学の校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とした。</p> <p>平成 11 年度自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（高校教員による本学視察及び意見交換）を実施した。</p> <p>教育水準の確保並びに教員の教育意識の向上を図るべく、FD（ファカルティディベロップメント）に学科毎に 1 年をかけて取り組み、その内容・成果を全学教育に反映させるため、全学科全専任教員参加の FD ワークショップを実施した。</p> <p>平成 12 年度実施した自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（プログラムレビュー）並びに教員による FD ワークショップの記録全てを平成 12 年度自己点検・評価報告書に掲載して公表し、さらに本学公式ホームページで平成 12 年度自己点検・評価報告書を学内外に公開した。</p> <p>岡山短期大学に図画工作・器楽レッスン棟を新設した。</p> <p>岡山学院大学の開学に伴い C 棟を全面改修により栄養学実験実習棟を新設した。</p> <p>岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科及び生活情報コミュニケーション学科を開学させた。</p>
<p>これまでの主な研究業績</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短期大学における自己点検・評価の有り方に関する調査研究報告書（共著・日本私立短期大学協会短期大学運営問題委員会） 2. 米国 2 年制高等教育機関の認定過程等について（共著・日本私立短期大学協会） 3. 高等教育機関認定のハンドブックー米国北西地区大学認定協会ー（共著・日本私立短期大学協会） 4. 岡山女子短期大学開学 40 周年史（共著・編集・岡山女子短期大学） 5. 私立短期大学の管理運営と活性化（共著・日本私立短期大学協会） <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多経間ラーメンの位相差を考慮した振動解析（法政大学大学院工学研究科（修士論文）） 2. 女子短大におけるコンピュータ教育（岡山女子短期大学紀要第 9 号） 3. 短期大学における情報教育（短期大学教育・日本私立短期大学協会） 4. 短期大学教育の質保証と国際通用性（短期大学教育 73 号・日本私立短期大学協会） 5. 米国の 2 年制カレッジと日本の短期大学（短期大学教育 74 号・日本私立短期大学協会） 	
<p>学会及び社会における活動等</p>	<p>土木学会会員（現在に至る）</p> <p>情報処理学会会員（現在に至る）</p> <p>高等教育質保証学会会員（現在に至る）</p> <p>同 会長（現在に至る）</p> <p>日本私立短期大学協会常任理事（現在に至る）</p> <p>公益社団法人フードスペシャリスト協会理事（現在に至る）</p> <p>一般財団法人短期大学基準協会認証評価委員会委員長（現在に至る）</p> <p>一般財団法人短期大学基準協会副理事長（現在に至る）</p>	

教員名	宮崎正博	学位	医学博士・理学修士	職名	教授
-----	------	----	-----------	----	----

担当科目	基礎化学、生化学ⅠⅡ、生化学実験、化学、教養演習ⅠⅡ、卒業研究Ⅰ				
専門分野	細胞学、生化学				
最終学歴	昭和53年3月	岡山大学大学院医学研究科博士過程腫瘍病理学専攻修了			
これまでの主な経歴	昭和53年4月 昭和57年2月 平成2年6月 平成3年4月 平成7年6月 平成13年4月 平成17年4月 平成19年3月 平成19年4月 平成24年4月 平成27年4月	岡山大学医学部附属癌源研究施設 助手（腫瘍病理学） 岡山大学医学部附属癌源研究施設 講師（腫瘍病理学） 岡山大学医学部附属癌源研究施設 助教授（腫瘍病理学） 岡山大学医学部附属分子細胞医学研究施設 助教授（細胞生物学） ピッツバーグ大学メディカルセンター（アメリカ合衆国）に文部省長期在外研究員として出張（平成8年3月まで） 岡山大学大学院医歯学総合研究科 専任・助教授（細胞生物学）（合） 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 専任・助教授（細胞生物学）（合） 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 専任・助教授（細胞生物学）退職 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 教授（生化学）（平成27年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科学科長（平成29年3月） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 特別専任教授（生化学）（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Onco-Developmental Gene Expression 2. Carcino-Embryonic Proteins II 3. 癌胎児性蛋白質 - 肝癌をめぐって 4. Neoplastic Transformation in Human Cell Culture 5. ヒトがん細胞株とその特性 6. Atlas of Human Tumor Cell Lines 7. 臨床アルブミン学 8. Human Cell Culture 9. International Congress Series 1252, Molecular Mechanism and Epochal Therapeutics of Ischemic Stroke and Dementia 10. 細胞培養実習テキスト 11. Advanced in Medicine and Biology Volume 71 <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The reaction of dicarboxylic acids containing ether linkages with alkaline earth metals 2. Stability constants of some bivalent first row transition metal chelates of dicarboxylic acids containing ether linkages 3. Effect of anti-alpha-fetoprotein serum on growth and plating efficiency of alpha-fetoprotein-producing hepatoma cells in vitro 4. Differential mechanisms of increased α1-fetoprotein production in rats following carbon tetrachloride injury and partial hepatectomy 5. Prompt elevation of rat α-fetoprotein by acute liver injury following a single injection of ethionine 6. Mechanisms of increased α1-fetoprotein production in hepatic injury 7. Increased α1-fetoprotein production in rat liver injuries induced by various hepatotoxins 8. エチオニン急性肝障害時のラット血清 α-Fetoprotein 濃度の増加とその電気泳動的性質について 9. Catabolism of α-fetoprotein in carbon tetrachloride injured rats 10. Primary culture of adult rat liver cells. I. Preparation of isolated cells from trypsin-perfused liver of adult rat 11. Primary culture of adult rat liver cells. II. Cytological and biochemical properties of primary cultured cells 12. Primary culture of adult rat liver cells. III. Hormonal effects on cytological and biochemical properties of primary cultured cells 13. α-Fetoprotein content in liver from rats following hepatotoxin administration and partial hepatectomy 14. Isolation and characterization of diploid clones from adult and newborn rat liver cell 				

	<p>lines</p> <p>15. Preparation of anti-rat albumin antiserum and its application to radioimmunoassay</p> <p>16. 正常および悪性肝細胞の初代培養と継代</p> <p>17. A simple method for purification of rat alpha-fetoprotein by Affi-Gel Blue chromatography and disc electrophoresis</p> <p>18. Influence of methionine administration on serum alpha-fetoprotein levels in ethionine-injured rats</p> <p>19. Regulation of rat alpha-fetoprotein production by methionine during ethionine hepatocarcinogenesis</p> <p>20. Alpha-fetoprotein dynamics during ethionine-induced hepatocarcinogenesis in rat</p> <p>21. Effect of 3'-methyl-4-dimethylaminoazobenzene on liver cells from adult rat in primary culture</p> <p>22. Selective growth of epithelial-like clear cells from adult rat liver by short-term exposure to glucocorticoids in primary culture</p> <p>23. Expression of gamma-glutamyltranspeptidase in cultures of spontaneously and chemically transformed rat liver cells</p> <p>24. 成熟ラット肝細胞の分離と初代培養</p> <p>25. Phenotypical stability of a human hepatoma cell line, HuH-7, in long-term culture with chemically defined medium</p> <p>26. Comparison of cytologic and biochemical properties between liver cells isolated from adult rats by trypsin perfusion and those isolated by collagenase perfusion</p> <p>27. Preparation and primary culture of liver cells isolated from adult rats by dispase perfusion</p> <p>28. Transformation of primary cultured and co-cultured adult rat liver cells by 3'-methyl-4-dimethylaminoazobenzene</p> <p>29. Long-term survival of functional hepatocytes from adult rat in the presence of phenobarbital in primary culture</p> <p>30. Effect of phenobarbital on adult rat liver cells treated with 3'-methyl-4-dimethylaminoazobenzene in primary culture</p> <p>31. Long-term survival of functional hepatocytes from adult rat in the presence of phenobarbital in primary culture</p> <p>32. Effect of phenobarbital on adult rat liver cells treated with 3'-methyl-4-dimethylaminoazobenzene in primary culture</p> <p>33. 初代培養ラット肝実質細胞の長期機能維持</p> <p>34. Perfusion technique of suckling rat liver, and comparison of cytologic and biochemical properties between hepatocytes isolated from suckling and adult rats</p> <p>35. Promotion of 3'-methyl-4-dimethylaminoazobenzene-initiated adult rat liver cells to malignant state by phenobarbital in culture</p> <p>36. Comparative study of proliferation of suckling and adult rat hepatocytes in primary culture in response to growth-stimulating factors</p> <p>37. Synthesis of barbituric acid derivatives and their effect on survival of functional hepatocytes from adult rats in primary culture</p> <p>38. Effect of various barbituric acid derivatives on survival of functional hepatocytes from adult rats in primary culture</p> <p>39. 肝細胞培養の歩みと展望 - 岡大癌研病理部の肝細胞培養の実績から</p> <p>40. Decreased albumin secretion in serum-free primary cultures of adult rat hepatocytes during proliferation induced by epidermal growth factor and insulin</p> <p>41. A method for rapid preparation of single-cell suspensions from rat hepatocyte primary cultures on collagen substratum and the mechanism of cell dissociation</p> <p>42. In vivo and in vitro test for growth potential of liver cells from rats during early stage of hepatocarcinogenesis by 3'-methyl-4-dimethylaminoazobenzene</p> <p>43. Mechanisms responsible for long term survival of adult rat hepatocytes in the presence of phenobarbital in primary culture</p> <p>44. Improved maintenance of adult rat hepatocytes in a new serum-free medium in the presence or absence of barbiturates</p> <p>45. Two distinct cell lines derived from a human osteosarcoma</p> <p>46. 初代培養成熟ラット肝細胞の形態及び機能維持におけるバルビツール酸誘導体の効果</p>
--	--

	<p>47. Selection of medium for serum-free primary culture of adult rat hepatocytes</p> <p>48. Influence of liver tumor promoters and structurally related chemicals on survival of normal adult rat hepatocytes in primary culture</p> <p>49. Enhancing effect of S-(1,2-dicarboxyethyl)glutathione on epidermal growth factor-stimulated DNA synthesis in primary cultures of adult rat hepatocytes</p> <p>50. Extending effects of phospholipids, cholesterol, and ethanolamines on survival of adult rat hepatocytes in serum-free primary culture</p> <p>51. Expression of liver-specific functions and secretion of a hepatocyte growth factor by a newly established rat hepatoma cell line growing in a chemically defined serum-free medium</p> <p>52. Effects of antioxidants on survival of adult rat hepatocytes under various oxygen tensions in serum-free primary culture</p> <p>53. スラミンのヒト癌細胞の増殖におよぼす影響</p> <p>54. ヒト骨髄腫細胞の 3H - チミジンの取り込みに及ぼすスラミンの効果</p> <p>55. 肝細胞培養と肝発癌の研究</p> <p>56. Human hepatocyte growth factor stimulates the growth of HuH-6 Clone 5 human hepatoblastoma cells</p> <p>57. Malignant transformation of human fibroblasts previously immortalized with 60Co gamma rays</p> <p>58. Effects of intracellular cyclic AMP and cyclic GMP levels on DNA synthesis of young-adult rat hepatocytes in primary culture</p> <p>59. Effects of barbiturates with or without liver-tumor-promoting activity on survival and DNA synthesis of suckling and adult rat hepatocytes in serum-free primary culture</p> <p>60. Increase of S-(1,2-dicarboxyethyl)glutathione in regenerating rat liver</p> <p>61. Antiproliferative effects of suramin on human cancer cells in vitro and in vivo</p> <p>62. ヒト肝細胞の初代培養とその応用</p> <p>63. immortalization of epithelial-like cells from human liver tissue with SV40 T-antigen gene</p> <p>64. Cytotoxicity test of ethanol using various human hepatoma and other cell lines</p> <p>65. Establishment and characterization of a SV40 T-antigen immortalized epithelial-like cell line derived from the newborn rat colorectum and its malignant transformation by the ras oncogene</p> <p>66. Factors affecting DNA synthesis in hepatocytes in primary culture</p> <p>67. Multistep malignant transformation of human cells. immortalization of human fibroblasts by treatment with 60Co gamma rays and 4-nitroquinoline 1 oxide, and their malignant transformation with the ras oncogene</p> <p>68. JCRB (Japanese Cancer Research Resources Bank)より配布された我々の樹立したヒト肝癌細胞の特徴とそれらの細胞を用いた研究の概観</p> <p>69. Increase in production of hepatocyte growth factor by human embryonic lung fibroblasts in the process of aging in culture</p> <p>70. 肝臓実質細胞の初代培養</p> <p>71. HT-29 (ヒト大腸癌細胞)</p> <p>72. Establishment and characterization of a human colon cancer cell line, OUMS-23, from a patient with familial adenomatous polyposis</p> <p>73. Persistence of hepatitis C virus RNA in established human hepatocellular carcinoma cell lines</p> <p>74. Spheroid cultures of human hepatoblastoma cells (HuH-6 Line) and their application for cytotoxicity assay of alcohols</p> <p>75. The p53 gene status and other cellular characteristics of human cell lines maintained in our laboratory</p> <p>76. Pyruvate alleviates toxic effects of ethanol on cells in culture</p> <p>77. Comparison of cellular characteristics between human hepatoma cell lines with wild-type p53 and those with mutant-type p53</p> <p>78. Yeast functional assay of p53 gene status in human cell lines maintained in our laboratory</p> <p>79. 人工肝に利用する細胞 - 不死化細胞の利用</p> <p>80. Ubiquitous presence of cellular proteins that specifically bind to the 3' terminal region</p>
--	--

	<p>of hepatitis C virus</p> <p>81. Cyclin E overexpression responsible for growth of human hepatic tumors with p21/WAF1/CIP1/SDI1</p> <p>82. Increased hepatocyte growth factor production by aging human fibroblasts mainly due to autocrine stimulation by interleukin-1</p> <p>83. Transforming growth factor-β1 stimulates or inhibits cell growth via down- or up-regulation of p21/Waf1</p> <p>84. Phenobarbital suppresses growth and accelerates restoration of differentiation markers of primary culture rat hepatocytes in the chemically defined HGM medium containing hepatocyte growth factor and epidermal growth factor</p> <p>85. A new human chondrosarcoma cell line (OUMS-27) that maintains chondrocytic differentiation</p> <p>86. Inhibitory effects of antioxidants on neonatal rat cardiac myocyte hypertrophy induced by tumor necrosis factor-α and angiotensin II</p> <p>87. Possible involvement of p21/waf1 in the growth inhibition of HepG2 cells induced by hepatocyte growth factor</p> <p>88. Dose dependent biphasic effects of phenobarbital on growth and differentiation of primary culture rat hepatocytes</p> <p>89. Establishment and cellular characteristics of a hepatocyte cell line (OUMS-31) derived from an acatalasemic mouse</p> <p>90. Enhanced activity of cyclin A-associated kinase in immortalized human fibroblasts</p> <p>91. Maintenance of near-diploid karyotype of PA-1 human ovarian teratocarcinoma cells due to death of polyploid cells by chromosome fragmentation/pulverization</p> <p>92. Yeast functional assay of the p53 gene status in 11 cell lines and 26 surgical specimens of human hepatocellular carcinoma</p> <p>93. Manumycin A, inhibitor of ras farnesyltransferase, inhibits proliferation and migration of rat vascular smooth muscle cells</p> <p>94. Cytogenetic characteristics and p53 gene status of human teratocarcinoma PA-1 cells in 407-445 passages</p> <p>95. Growth inhibitory effects of ATP and its derivatives on human fibroblasts immortalized with 60Co-gamma rays</p> <p>96. Different expression of positive and negative regulators of hepatocyte growth in growing and shrinking hepatic lobes after portal vein branch ligation in rats</p> <p>97. A REIC gene shows down-regulation in human immortalized cells and human tumor derived cell lines</p> <p>98. Transplantation of highly differentiated immortalized human hepatocytes to treat acute liver failure</p> <p>99. Establishment of a highly differentiated immortalized human hepatocyte cell line as a source of hepatic function in the bioartificial liver</p> <p>100. Prevention of acute liver failure in rats with reversibly immortalized human hepatocytes</p> <p>101. Synergism between interferon-γ and cAMP in induction of hepatocyte growth factor in human skin fibroblasts</p> <p>102. Treatment of surgically-induced acute liver failure with transplantation of highly differentiated immortalized human hepatocytes</p> <p>103. Relationship between contact inhibition and intranuclear S100C of normal human fibroblasts</p> <p>104. Establishment of a human hepatoma cell line, HLE/2E1, suitable for detection of P450 2E1-related cytotoxicity</p> <p>105. Intrasplenic transplantation of immortalized human fetal hepatocytes prolongs the survival of 90% hepatectomized rats</p> <p>106. Hepatocyte growth factor induces differentiation of adult rat bone marrow cells into a hepatocyte lineage in vitro</p> <p>107. In vitro aging research in Japan</p> <p>108. 急性肝不全に対する不死化ヒト肝細胞の移植</p> <p>109. TNF-α とアンギオテンシン II による心筋細胞肥大と活性酸素の関与</p> <p>110. Loss of nuclear localization of the S100C protein in immortalized human fibroblasts</p>
--	---

	<p>111. Overexpression of platelet-derived growth factor B and downregulation of PDGF-receptor α in human immortalized fibroblasts</p> <p>112. Identification of a phosphoprotein that is down-regulated in immortalized human fibroblasts</p> <p>113. Enhanced expression of cyclin E and cyclin A in human hepatocellular carcinomas</p> <p>114. Microsatellite instability correlates with normal expression of cyclin E in hepatocellular carcinomas</p> <p>115. Development of a serum-free medium for a human immortalized fibroblast cell line (KMST-6/TNF) producing tumor necrosis factor-α (TNF-α) and growth inhibitory effects of its conditioned medium on malignant cells in culture</p> <p>116. Reduced expression of REIC/Dkk-3 gene in non-small cell lung cancer</p> <p>117. Up-regulation of S100C in normal human fibroblasts in the process of aging in vitro</p> <p>118. Establishment of a human hepatocyte line (OUMS-29) having CYP 1A1 and 1A2 activities from fetal liver tissue by transfection of SV40 LT</p> <p>119. Insertion of a suicide gene into an immortalized human hepatocyte cell line</p> <p>120. Construction of a differentiated human hepatocyte cell line expressing the herpes simplex virus-thymidine kinase gene</p> <p>121. Reactivation of liver-specific gene expression in an immortalized human hepatocyte cell line by introduction of the human HNF4α gene</p> <p>122. Antiproliferative activity of REIC/Dkk-3 and its significant down-regulation in non-small-cell lung carcinomas</p> <p>123. ヒト不死化肝細胞</p> <p>124. Isolation of a Bone Marrow-Derived Stem Cell Line with High Proliferation Potential and Its Application for Preventing Acute Fatal Liver Failure</p> <p>125. Reduced expression of the REIC/Dkk-3 gene by promoter-hypermethylation in human tumor cells</p> <p>126. Increased cytotoxicity of carbon tetrachloride in a human hepatoma cell line overexpressing cytochrome P450 2E1</p> <p>127. Improved conditions to induce hepatocytes from rat bone marrow cells in culture</p> <p>128. ヒト培養細胞の肝機能発現とその利用法 - バイオ人工肝の多角的な応用をめざして</p> <p>129. CYP2E1 overexpression up regulates both non-specific δ-aminolevulinate synthase and heme oxygenase-1 in the human hepatoma cell line HLE/2E1</p> <p>130. Involvement of arachidonic acid in nonimmunologic production of superoxide in mast cells</p> <p>131. Participation of adult mouse bone marrow cells in reconstitution of skin</p> <p>132. S100C/A11 is a key mediator of Ca²⁺-induced growth inhibition of human epidermal keratinocytes</p> <p>132. 骨髄中肝幹細胞</p> <p>133. Decreased expression of REIC/Dkk-3 in human renal clear cell carcinoma</p> <p>134. PKC-α mediates TGFβ-induced growth inhibition of human keratinocytes via phosphorylation of S100C/A11</p> <p>135. Involvement of IRF-1 and S100C/A11 in growth inhibition by TGF-β1 in human hepatocellular carcinoma cells</p> <p>136. Propagation of adult rat bone marrow-derived hepatocyte-like cells by serial passages in vitro</p> <p>137. Expression of CYP3A4 by an immortalized human hepatocyte line in a three-dimensional culture using a radial-flow bioreactor</p> <p>138. Anti-endostatin monoclonal antibody enhances growth of human hepatocellular carcinoma cells by inhibiting activity of endostatin secreted by the transplanted cells in nude mice</p> <p>139. β遮断薬と酸化ストレス</p> <p>140. 心不全における酸化ストレスの関与:基礎的ならびに臨床的検討 - 岡山大学医学賞 (結城賞) を受賞して</p> <p>142. Expression of neurocan after transient middle cerebral artery occlusion in adult rat brain</p> <p>143. Inhibition of hepatocyte growth factor production in human fibroblasts by ursodeoxycholic acid</p>
--	---

	<p>144. Protein transduction assisted by polyethylenimine-cationized carrier proteins</p> <p>145. Bifurcated converging pathways for high Ca²⁺ and TGFβ-induced inhibition of growth of normal human keratinocytes</p> <p>146. Intracellular delivery of proteins into mammalian living cells by polyethylenimine-cationization</p> <p>147. バイオ人工肝 - 臨床応用への課題</p> <p>148. バイオ人工肝 - 実用化のための基本的な条件</p> <p>149. Adenovirus-mediated overexpression of REIC/Dkk-3 selectively induces apoptosis in human prostate cancer cells through activation of c-Jun-NH2-Kinase</p> <p>150. Carvedilol inhibits proliferation of cultured pulmonary artery smooth muscle cells of patients with idiopathic pulmonary arterial hypertension</p> <p>151. Isolation of epithelial stem cells from dermis by a three-dimensional culture system</p> <p>152. Efficient differentiation into skin cells of bone marrow cells recovered in a pellet after density gradient fractionation</p> <p>153. Implantation of a new porous gelatin-siloxane hybrid into a brain lesion as a potential scaffold for tissue regeneration</p> <p>154. Limited contribution of cells of intact extrahepatic tissue origin to hepatocyte regeneration in transplanted rat liver</p> <p>155. Isolation of a bone marrow-derived stem cell line with high proliferation potential and its application for preventing acute fatal liver failure</p> <p>156. Reduction of cerebral infarction in rats by biliverdin associated with amelioration of oxidative stress</p> <p>157. Derivation of hepato-pancreatic intermediate progenitor cells from a clonal mesenchymal stem cell line of rat bone marrow origin</p> <p>158. Mechanistic analysis of resistance to REIC/Dkk-3-induced apoptosis in human bladder cancer cells</p> <p>159. Suppression of carbon tetrachloride-induced liver fibrosis by transplantation of a clonal mesenchymal stem cell line derived from rat bone marrow</p> <p>160. A novel three-dimensional culture system for isolation and clonal propagation of neural stem cells using a thermo-reversible gelation polymer</p> <p>161. Transcriptional regulation of a brown adipocyte-specific gene, UCP1, by KLF11 and KLF15</p> <p>162. A new risk assessment method for evaluation of oxidative chemicals using catalase mutant mouse primary hepatocytes</p> <p>163. Mitogen-activated protein kinase-dependent induction of hepatocyte growth factor production in human dermal fibroblasts by the antibiotic polymyxin B</p> <p>164. Resveratrol inhibited hydroquinone-induced cytotoxicity in mouse primary hepatocytes</p>
<p>学会及び社会 における活動 等</p>	<p>日本組織培養学会 肝細胞研究会 世話人 (平成 29 年 1 月まで) 肝再生研究会 世話人 (平成 16 年 12 月～現在に至る) 日本再生医療学会 (平成 28 年 5 月まで) 岡山大学医学部林原賞 日本組織培養学会奨励賞 日本再生医療学会優秀演題賞</p>

教員名	次田隆志	学位	農学博士	職名	教授
-----	------	----	------	----	----

担当科目	食品学総論ⅠⅡ、食料経済、食品学総論実験、食文化論、フードコーディネーター論				
専門分野	食品学				
最終学歴	昭和54年3月	東京大学大学院農学系研究科農芸化学専門課程博士課程修了			
これまでの主な経歴	昭和54年4月 昭和55年4月 昭和57年4月 昭和58年4月 昭和60年4月 平成2年5月 平成7年7月 平成7年12月 平成10年4月 平成14年4月 平成16年4月	湘北短期大学非常勤講師(栄養化学担当)(昭和55年3月まで) 青山学院女子短期大学非常勤講師(栄養学、生活科学実験担当)(昭和58年3月まで) 京浜女子大学非常勤講師(食品化学、食品化学実験担当)(昭和58年3月まで) 東京大学農学部助手(農芸化学実験、農芸化学卒業研究、大学院食品化学特論担当)(昭和60年3月まで) 株式会社加ト吉、バイオサイエンス研究室長(平成7年11月まで) 株式会社加ト吉バイオ、取締役研究開発部長(併任)(平成9年5月まで) 佐賀大学非常勤講師(生物資源利用化学特講担当) 株式会社加ト吉、品質管理室長(平成9年5月まで) 岡山女子短期大学(現岡山短期大学)教授(食品加工学、食品学各論、公衆栄養学担当) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教授(食品学各論、食文化論、食品学各論実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究(A),(B)担当)(現在に至る) 香川大学工学部非常勤講師(新技術商業化論担当)(平成16年9月まで)			
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キチン・キトサンの開発と応用 2. 機能性食品の開発展望 3. Advances in Fisheries Technology and Biotechnology for Increased Profitability. 4. 新食品開発用素材便覧 5. キチン、キトサンハンドブック 6. バイオセパレーションプロセス便覧 7. ゴマの機能と科学 <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Fractionation and Identification of Volatile Acids and Phenols in the Steam Distillate of Rice Bran. 2. Volatile Components in the Steam Distillate of Rice Bran. Identification of Neutral and Basic Compounds. 3. GC and GC-MS Analysis of Headspace Volatiles by Tenax GC Trapping Techniques. 4. Volatile Components after Cooking Rice Milled to Different Degrees. 5. Changes of Headspace Volatile Components of Soybeans during Roasting. 6. Changes of Volatile Flavor Components of Soybeans during Roasting. 7. Cooking Flavor and Texture of Rice Stored under Different Conditions. 8. Effect of Parboiling on Texture and Flavor of Cooked Rice. 9. 米の貯蔵中の変化に及ぼすパーボイル加工の影響 10. キチン・キトサンによる作物の生長促進効果, 第1報 生長促進とその作用性 11. キチン・キトサンによる作物の生長促進効果 第2報 各種作物への栽培適用性 12. 微生物・酵素利用によるキチン・キトサンおよびそのオリゴ糖の生産技術の開発 13. Hypocholesterolemic Effect of Chitosan in Adult Males. 14. Effect of Dietary Chitosan on Faecal Microbiota and Faecal Metabolites of Humans. 15. ゲル化キトサンのコレステロール改善作用 16. キトサン添加即席粥の血中コレステロール改善作用 17. キトサンの過剰摂取における糞便性状への影響ならびにヒトにおける消化吸収性 18. グルコサミンの食品添加における安定性 19. 黒豆煮汁の機能性解析とヒト試験 20. 倉敷市老人クラブ連合会と提携した「有喜・栄養長寿教室」と管理栄養士教育における位置づけ(査読付) 21. 倉敷市老人クラブ構成員における健康・栄養調査(査読付) 				

	<p>22. 本学学生およびその家族における，年中行事の認知状況と行事食の認知・経験状況の解析（査読付）</p> <p>23. 本学学生の実態調査（査読付）</p> <p>24. 苦味・渋味食品の喫食とBMIとの関係（査読付）</p>
学会及び社会における活動等	<p>日本農芸化学会</p> <p>日本栄養・食糧学会</p> <p>日本家政学会</p> <p>日本調理科学会</p> <p>一般社団法人おいしさの科学研究所理事（現在に至る）</p>

教員名	竹原良記	学位	医学博士	職名	教授
-----	------	----	------	----	----

担当科目	基礎栄養学、基礎栄養学実験、応用栄養学、応用栄養学実習、栄養アセスメント、総合演習卒業研究 I				
専門分野	栄養学、生化学				
最終学歴	昭和 53 年 3 月 平成 2 年 6 月	愛媛大学農学部農芸化学科卒業 岡山大学医学博士号取得 (博乙 2137 号)			
これまでの主な経歴	昭和 55 年 1 月 平成 1 年 8 月 平成 2 年 4 月 平成 2 年 7 月 平成 4 年 4 月 平成 4 年 4 月 平成 8 年 10 月 平成 12 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 16 年 4 月 平成 18 年 4 月 平成 29 年 4 月	(財)倉敷成人病センター医科学研究所研究員 (平成 4 年 4 月) 川崎医科大学実験病理学教室共同研究 (平成 2 年 3 月まで) 岡山大学医学部分子細胞医学研究施設細胞生物学部門共同研究 (平成 2 年 7 月まで) 米国ペンシルバニア大学留学 (平成 3 年 7 月まで) (財)倉敷成人病センター医科学研究所主任研究員 (平成 14 年 3 月まで) 高知医科大学生物学教室共同研究 (平成 4 年 10 月まで) 岡山女子短期大学非常勤講師 (平成 12 年 4 月岡山短期大学に校名変更) (小児栄養、臨床栄養学) 大阪市立大学医学部生化学第一教室非常勤講師 (平成 16 年 3 月まで) (生物化学) (平成 16 年 4 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科助教授 (平成 16 年 3 月まで) (基礎栄養学、応用栄養学) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教授 (基礎栄養学、応用栄養学) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教授 (現在に至る) (基礎栄養学、応用栄養学、運動栄養学) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科学科長 (現在に至る)			
これまでの主な研究業績	(著書) 1. 「未熟児、新生児の酸素障害」 2. 「ビタミンE研究の進歩 I」 3. 「ビタミンE研究の進歩 III」 4. 「ビタミンE研究の進歩 V」 5. 「ビタミンE研究の進歩 VI」 6. 「フリーラジカルの臨床 11」 7. 「生命誕生と生物の生存戦略」 8. 「Understanding the Process of Aging.」 9. 「新ミトコンドリア学」 10. 「N ブックス 実験シリーズ 基礎栄養学実験」 (学術論文) 1. 腹水癌細胞および分離肝ミトコンドリアのエネルギー代謝に対するシアニン色素 diS-C3-(5)の阻害作用とその機構 2. セファランチンによる赤血球形態変化とその機構 3. Interaction of cytoplasmic proteins with liposome and their cell specificity 4. 抗酸化剤のラット胎仔、新生仔の過酸化脂質に及ぼす影響 5. ラット再生肝における過酸化脂質及びミトコンドリア呼吸能の変動とビタミンE 6. ラット新生仔の過酸化脂質とビタミンE 7. Blood and tissue levels of lipoperoxides in rats during development 8. 臍帯赤血球の溶血亢進について 9. Lipid peroxidation and antioxidants in rat liver during development 10. 妊娠、新生仔ラットにおける過酸化脂質とビタミンE 11. Lipoperoxides, vitamin E and activities of superoxide dismutase, glutathione peroxidase and catalase in regenerating rat liver 12. 双胎児妊娠とリポ蛋白代謝 13. 妊娠ラットにおける過酸化脂質とビタミンE 14. ラット再生肝における過酸化脂質の変動-ビタミンEとγオリザノール投与の影響 15. ラット再生肝におけるセファランチンの影響 16. ラット再生肝におけるセファランチンの薬理作用 17. ヒト胎盤組織における過酸化脂質と関連物質				

18. 母胎および臍帯血におけるグルタチオン代謝
19. 妊娠ラットによる血小板凝集能
20. ヒト胎盤の in vitro における脂質過酸化反応
21. Selective inhibition of stimulation responses of neutrophils by membrane modulators
22. Fluorescence and electron microscopic study of intracellular F-actin in Concanavalin A-treated and cytochalasin B-treated Ehrlich ascites tumor cells
23. Protective effect of vitamin E against lipoperoxidation in developing rat
24. Presence of abundant filaments in apical caps of the nonciliated bronchiola epithelial (Clara) cells
25. ヒト胎盤における in vitro での脂質過酸化反応に対するエストロゲンの影響
26. Lipid peroxidation and vitamin E levels during pregnancy in rats
27. 妊娠週数に伴う血液中及び胎盤組織中の過酸化脂質と 2-OHE1 との関連性について
28. Changes in the levels of lipoperoxide and antioxidant factors in human placenta during gestation (学位論文)
29. Effects of antioxidants on V79 chinese hamster cells treated with ferric nitrilotriacetate
30. 人卵胞液中のビタミンEとステロイドの関連性
31. ヒト卵胞液中の過酸化脂質濃度とビタミンEおよびステロイドホルモンの関連性
32. In situ hybridization at light and electron microscopic levels
33. 活性酸素消去酵素によるDNA損傷の抑制
34. Reversible priming and protein-tyrosyl phosphorylation in human peripheral neutrophils under hypotonic conditions
35. DNA damage by various forms of active oxygens and its inhibition by different scavengers using plasmid DNA
36. Acute hepatic failure with swollen mitochondria and microvesicular fatty degeneration of hepatocytes triggered by free radical initiator
37. Dysfunction of mouse liver mitochondria induced by 2,2'-azobis-(2-amidinopropane) dihydrochloride, a radical initiator, in vitro and in vivo
38. 臍帯血好中球の刺激応答性スーパーオキシド生成とビタミンE
39. 低線量 γ 線照射によるアロキサン糖尿病症状の抑制効果
40. NOの生物作用とその酸素濃度による調節
41. Inhibition of stimulus-specific neutrophil superoxide generation by alpha-tocopherol
42. Effect of the antiretroviral agent hypericin, on rat liver mitochondria
43. Oxygen-dependent regulation of mitochondrial energy metabolism by nitric oxide
44. Inhibition of neutrophil superoxide generation by hypericin, an antiretroviral agent
45. Protection against alloxan diabetes by low-dose ^{60}Co γ irradiation before alloxan administration
46. Nitric Oxide, a Physiological Modulator of Mitochondrial Function
47. Inhibition of neutrophil-superoxide generation by α -tocopherol and coenzymeQ
48. Oxygen-Dependent Regulation of Ehrlich Ascites Tumor Cell Respiration by Nitric Oxide
49. 2,2'-Azobis-(2-amidinopropane) dihydrochloride (AAPH)による生体膜機能の障害
50. Oxygen-Dependent Reversible Inhibition of Mitochondrial Respiration by Nitric Oxide
51. 細胞及びオルガネラ機能に対する磁場暴露効果の検索
52. 抗レトロウイルス剤ヒペリシンのミトコンドリアに対する光依存性作用とその機構
53. ラット大動脈平滑筋のNOおよびNO生成試薬による弛緩とその酸素張力依存性
54. Do reactive oxygen species underlie the mechanism of apoptosis in the tadpole tail?
55. 前骨髄性白血病細胞HL-60のapoptosisにおける磁場暴露効果の検討
56. 血管収縮機構とビルベロン
57. ブルーベリー抽出物(ビルベロン)の血管拡張作用
58. ブルーベリー抽出エキス(ビルベロン)の血管収縮弛緩作用
59. Role of cross-talk of nitric oxide, superoxide, and molecular oxygen in the regulation of gastrointestinal function and enteric bacteria
60. Oxygen concentration regulates NO-dependent relaxation of aortic smooth muscles
61. Cross-talk of NO, superoxide and molecular oxygen, a majesty of aerobic life
62. Interration between oxygen tension and nitric oxide in the respiratory system
63. Effects of low-dose irradiation on the growth changes in culture cells by iron
64. AOBのアポトーシスへの関与

	<p>65. Mechanism of apoptosis in HL-60 cells induced by n-3 and n-6 polyunsaturated fatty acids</p> <p>66. Effect of n-3 and n-6 polyunsaturated fatty acids and their ethylesters on stimuli-dependent superoxide generation in neutrophils</p> <p>67. ブルーベリー抽出エキスおよびアントシアニンによるラット動脈血管の内皮依存性弛緩と活性酸素消去能</p> <p>68. The Effects of Immunosuppressants on FAS Human T Lymphocytes</p> <p>69. ニンニク “マン・ナップ®” の抗酸化作用に関する研究</p> <p>70. Mechanisms of Enhanced Apoptosis in HL-60 Cells by UV-Irradiated n-3 and n-6 Polyunsaturated Fatty Acids</p> <p>71. ブルーベリー抽出エキスおよびアントシアニンによる内皮依存性血管弛緩と抗酸化能</p> <p>72. フルクトース負荷による幼若ラットの代謝変化-性による違い-</p> <p>73. オリーブ水溶性抽出物 HydroxTM の抗酸化作用とその解析</p> <p>74. 羅布麻抽出物 (ベネトロン) の抗酸化作用とその解析</p> <p>75. 5-アミノレブリン酸 -光線力学的治療の有効性に注目して-</p> <p>76. デイサービスにおける簡易栄養状態評価表 (Mini-Nutritional Assessment : MNA) を用いた栄養アセスメントの有用性について検討-第1報-</p>
<p>学会及び社会 における活動 等</p>	<p>日本生化学会会員 日本過酸化脂質・フリーラジカル学会会員 日本アイソトープ協会会員 日本新生児学会会員 日本脂質生化学会会員 日本ビタミン学会会員 日本臨床栄養学会会員 日本臨床栄養学会評議員 日本栄養アセスメント研究会会員 倉敷市食育推進会議委員 倉敷成人病センター治験薬審査委員 (現在に至る)</p>

教員名	熊谷智代	学位等	医師・博士(医学) 死体解剖資格、細胞診専門医	職名	教授
-----	------	-----	----------------------------	----	----

担当科目	病理学、解剖生理学Ⅱ	
専門分野	人体病理学、病態検査学	
最終学歴	昭和 59 年 3 月	広島大学医学部医学科卒業
これまでの主な経歴	昭和 59 年 5 月 昭和 59 年 7 月 昭和 61 年 11 月 昭和 62 年 1 月 平成 3 年 5 月 平成 4 年 4 月 平成 7 年 9 月 平成 10 年 4 月 平成 14 年 9 月 平成 22 年 4 月	香川医科大学第 1 内科学教室入局 研究生 (昭和 61 年 10 月まで) キナシ大林病院内科 内科医 (昭和 61 年 10 月まで) 岡山大学第 1 病理学教室入局 研究生 (平成 3 年 3 月まで) 八重垣病院内科 非常勤内科医 (平成 3 年 4 月まで) 倉敷中央病院病理検査科 病理医 (平成 4 年 3 月まで) 三原赤十字病院病理検査科 病理医 (平成 10 年 3 月まで) 因島総合病院病理診断科 非常勤病理医 (現在に至る) 福山市医師会診断病理学センター 非常勤病理医 (現在に至る) 西日本病理研究所 非常勤病理医 (現在に至る) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授 (担当科目: 病理学・解剖生理学) (現在に至る)
これまでの主な研究業績	(学術論文) 1. 妊婦 Hernia sac に於ける Decidual Reaction の 1 例 2. Mobilization of Iron and Iron-related Protein in Rat Spleen after intravenous Injection of Lipopolysaccharides (LPS) (博士學位論文) 3. 一度みたら忘れられない内視鏡画像 48 嚢胞ポリープ性胃炎 4. 腸間膜原発 Hodgkin 病の 1 例 5. 動静脈形成異常が原因と考えられた回腸腸重積症の 1 例 6. 慢性血液透析患者に発生した腎細胞癌の 3 例 7. 早期十二指腸癌の 1 例 8. 維持透析患者に発生した胸腺癌の 1 例 9. 脳腫瘍の細胞診—組織像との対比— 10. 当院における Helicobacter pylori 除菌の現況 11. 術中迅速診断のあり方と問題点 12. ポリープ状嚢胞状胃炎に合併した残胃癌の 1 例 13. 病理解剖の意義と現状 14. 乳腺細胞診における筋上皮細胞の同定とその診断的意義 15. 病理学と社会 第 1 部 医療の中の病理学 地域医療における病理学の役割—医師会を核とする病院ブロック病理科の提唱と実践 16. 各種特殊型子宮頸部扁平上皮癌 8 例の細胞学的検討 17. キャッスルマン病—病型の異なる 5 例の報告— 18. 乳腺非浸潤性アポクリン癌の 1 例 19. 乳腺の argyrophilic mucinous carcinoma の一例 20. 男子乳腺疾患の当施設における統計学的検討 21. 子宮頸部扁平上皮癌の撲滅をめざして—病理学の立場から— 22. 第 17 回備州臨床病理フォーラム 尿路癌(腎盂・尿管・膀胱癌)どう見つけ、どう治す—尿路癌の病理診断— 23. セルブロック法を活用した体腔液細胞診の診断	
学会及び社会における活動等	日本病理学会 日本臨床細胞学会 日本血液学会 日本生気象学会	

教員名	正司和彦	学位	工学博士	職名	教授
-----	------	----	------	----	----

担当科目	情報リテラシーⅠⅡ、教育の方法及び技術（A）（B）、図書館情報技術論、社会教育演習（情報検索演習）				
専門分野	教育工学、情報処理				
最終学歴	昭和46年3月	大阪大学大学院工学研究科博士課程（電気工学専攻）単位修得満期退学			
これまでの主な経歴	昭和46年4月 55年5月 55年8月 56年1月 平成1年4月 5年4月 7年8月 14年4月 17年4月 19年3月 19年4月 20年4月 22年4月	大阪大学工学部助手（昭和55年4月まで） 兵庫教育大学学校教育研究センター助教授（平成1年3月まで） 大学設置審議会教員組織審査において兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程助教授（兼任）（計算機応用論，教育工学基礎論，情報処理演習，課題研究担当）M可と判定 大学設置審議会教員組織審査において兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程助教授（兼任）（情報処理論，同演習担当）M可と判定 兵庫教育大学学校教育研究センター教授（平成5年3月まで） 兵庫教育大学学校教育学部教授（平成17年3月まで） 大学設置審議会教員組織審査において兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程教授（教育工学・教育情報学特別研究，課題研究担当）D〇合と判定 兵庫教育大学情報処理センター長（兼任）（平成19年3月まで） 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授（学習環境システム開発論，教育課程と教授・学習理論，情報教育法特論Ⅰ，課題研究担当）（平成19年3月まで） 兵庫教育大学定年退職 兵庫教育大学名誉教授（現在に至る） 新潟総合学院通信制大学設置準備室職員（平成20年3月まで） 岡山短期大学幼児教育学科特別専任教授（平成22年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教師のための情報教育入門講座 一高等学校編一 2 総合的な学習の時間の理論と実践 情報編 3 インターネット時代の教育情報工学2 ニュー・テクノロジー編 4 情報と職業 5 情報教育の学習評価 6 最新モデル化とシミュレーション <p>（学術論文）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 非線形制御系の周波数領域における安定条件とその応用に関する研究（博士学位論文） 2 マルチメディアシステムにおけるオーサリングツールと教材構築法 3 ハイパーメディアを利用した授業の設計と展開の方法 4 接続関係による動的リンク機構を有するハイパーメディア教材オーサリングツールについて 5 ハイパーメディア教材における動的リンク機構のネットワークングについて 6 教師教育のための遠隔学習システムについて 7 コミュニケーション活動を促す学習ネットワークへの接続関係の応用 8 マルチメディアネットワーク学習環境の構築と教科オーサリング法 9 高等学校普通教科「情報」の実施に関わる現職教員の意識調査 10 話し合いを支援するネットワーク学習環境の開発と授業実践 11 学習の振り返りを支援する電子ポートフォリオシステムの開発とその利用による授業実践 12 仮想空間を利用した障害児と健常児の相互理解を深める交流実践 13 モデリング学習における高等学校物理Ⅱ課題研究の単元開発と実践 14 Web上の相互添削とリンク埋め込み型日英コーパスを利用する総合的ライティングシステムの開発 15 電子メール経験のポートフォリオ化による情報モラル育成のための学習支援システム開発に向けた授業実践 16 課題解決型学習のための授業展開とWeb-DB連携による学習用電子ポートフォリオシステムの開発 17 モデリングとシミュレーションを導入した工業実験・実習の授業改善 18 小学生を対象としたメッセージ推敲のための適応型キーワード提示 19 ブログを利用した情報発信学習における生徒による情報分類の変化 				

	20 子どもの発達と認知に即した授業設計と実践について
学会及び社会 における活動 等	日本教育実践学会会員（現在に至る）

教員名	清水憲二	学位	理学博士	職名	教授
-----	------	----	------	----	----

担当科目	基礎生物学、運動栄養学、解剖生理学Ⅰ、運動生理学、解剖生理学実験ⅠⅡ、卒業研究Ⅰ				
専門分野	生化学、分子遺伝学、分子腫瘍学 癌の遺伝子科学、癌遺伝子、癌抑制遺伝子、癌分子疫学				
最終学歴	昭和47年12月 昭和51年10月	九州大学大学院理学研究科博士課程中途退学 理学博士（九州大学）			
これまでの主な経歴	昭和48年1月 昭和55年8月 ～昭和58年3月 昭和58年4月 昭和63年2月 昭和63年8月 平成6年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成24年3月 平成24年4月	九州大学理学部分子遺伝学講座・助手（分子遺伝学） 米国 NY 州 Cold Spring Harbor（コールドスプリングハーバー）研究所・客員研究員（研究所長：J.D. Watson 博士、主任：M. H. Wigler 博士） 九州大学理学部分子遺伝学講座・助手（復職） 九州大学理学部分子遺伝学講座・助教授（分子遺伝学） 九州大学医学部第一生化学教室・助教授（生化学） 岡山大学医学部分子細胞医学研究施設、病態遺伝子解析部門・教授（医学生物学、分子遺伝学、生化学） 岡山大学大学院医歯（薬）学総合研究科、腫瘍制御学講座・教授（大学設置審議会の審査結果：大学院教授として○合。） 岡山大学自然生命科学研究支援センター・（副）センター長（併任） 岡山大学教授を定年退職（名誉教授：引き続き、特命教授を兼任） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <p>(15件から抜粋)</p> <p>1 医学研究における組換え DNA 実験 III</p> <p>2 Oncogenes and Cancer</p> <p>3 GTP 結合蛋白質</p> <p>4 標準分子医化学</p> <p>5 癌化のメカニズムを解く (学術論文)</p> <p>(2000年以前：52件から抜粋)</p> <p>1 5'-3' Exonucleases of bacteriophage T4. (査読付)</p> <p>2 Introduction of an active enzyme into permeable cells of Escherichia coli : Acquisition of ultraviolet light resistance by uvr mutants on introduction of T4 endonuclease V. (査読付)</p> <p>3 Human tumor -derived cell lines contain common and different transforming genes. (査読付)</p> <p>4 Isolation and preliminary characterization of a human transforming gene from T24 bladder carcinoma cells. (査読付)</p> <p>5 Activation of the T24 bladder carcinoma transforming gene is linked to a single aminoacid change. (査読付)</p> <p>6 Isolation and preliminary characterization of the transforming gene of a human neuroblastoma cell line. (査読付)</p> <p>7 Three human transforming genes are related to the viral <i>ras</i> oncogenes. (査読付)</p> <p>8 Structure of the K-<i>ras</i> gene of the human lung carcinoma cell line Calu-1. (査読付)</p> <p>9 Structure and activation of the N-<i>ras</i> gene. (査読付)</p> <p>10 Molecular cloning of an activated human oncogene, homologous to v-<i>raf</i>, from primary stomach cancer. (査読付)</p> <p>11 Mutations of E2F-4 trinucleotide repeats in colorectal cancer with microsatellite instability. (査読付)</p> <p>12 Close correlation between mutations of E2F4 and hMSH3 genes in colorectal cancers with microsatellite instability. (査読付)</p> <p>13 Genomic Structure of the Human ING1 Gene and Tumor- specific Mutations Detected in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas. (査読付)</p> <p>2001年以後</p> <p>14 A Novel WD40 Repeat Protein, WDC146, Highly Expressed during Spermatogenesis in a Stage-specific Manner. (査読付)</p>				

	<p>15 Effect of naturally occurring E2F-4 alterations on transcriptional activation and proliferation in transfected cells. (査読付)</p> <p>16 High frequency of low-level microsatellite instability in early colorectal cancer. (査読付)</p> <p>17 Reduced expression of the REIC/Dkk-3 gene by promoter -hypermethylation in human tumor cells. (査読付)</p> <p>18 Prognostic value of loss of heterozygosity around three candidate tumor suppressor genes on chromosome 10q in astrocytomas. (査読付)</p> <p>19 Allelic loss and reduced expression of the ING3, a candidate tumor suppressor gene at 7q31, in human head and neck cancers. (査読付)</p> <p>20 Significant correlation of the SCN1A mutations and severe myoclonic epilepsy in infancy. (査読付)</p> <p>21 Genetic alterations of the ornithine decarboxylase gene in human colorectal cancers. (査読付)</p> <p>22 Allelic imbalance and microsatellite instability in plasma DNA released from polyclonal pancreatic adenocarcinoma. (査読付)</p> <p>23 E2F-4 mutation in hereditary non-polyposis colorectal cancer. (査読付)</p> <p>24 A Case of Pancreatic Adenocarcinoma with Novel K-ras Mutation and Long Term survival. (査読付)</p> <p>25 Gene silencing of the tyrosine phosphatase SHP1 gene by aberrant methylation in leukemias/lymphomas. (査読付)</p> <p>26 Smoke exposure, histologic type and geography-related differences in the methylation profiles of non-small cell lung cancer. (査読付)</p> <p>27 Genome-wide analyses on loss of heterozygosity in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>28 Cryptic CTL epitope on a murine sarcoma Meth A generated by exon extension as a novel mechanism. (査読付)</p> <p>29 Detection of codon 61 point mutations of the K-ras gene in lung and colorectal cancers by enriched PCR. (査読付)</p> <p>30 Splicing isoform of SYT-SSX fusion protein accelerates transcriptional activity and cell proliferation. (査読付)</p> <p>31 Paroxysmal movement disorders in severe myoclonic epilepsy in infancy. (査読付)</p> <p>32 Single nucleotide polymorphism in fibroblast growth factor 4 at codon 388 is associated with prognosis in high-grade soft tissue sarcoma. (査読付)</p> <p>33 Is phenotype difference in severe myoclonic epilepsy in infancy related to SCN1A mutants?(査読付)</p> <p>34 Establishment and characterization of a biphasic synovial sarcoma cell line, SYO-1. (査読付)</p> <p>35 Positive correlation between allelic loss at chromosome 14q24-31 and poor prognosis of patients with renal cell carcinoma. (査読付)</p> <p>36 Tumor-specific exon creation of the HELLS /SMARCA6 gene in non-small cell lung cancer. (査読付)</p> <p>37 CYP2C polymorphisms, phenytoin metabolism and gingival overgrowth in epileptic subjects. (査読付)</p> <p>38 Prevalent hyper-methylation of the CDH13 gene promoter in malignant B cell lymphomas. (査読付)</p> <p>39 Loss of heterozygosity on chromosome 10q associated with malignancy and prognosis in astrocytic tumors, and discovery of novel loss regions. (査読付)</p> <p>40 SYT, a partner of SYT-SSX oncoprotein in synovial sarcomas, interacts with mSin3A, a component of histone deacetylase complex. (査読付)</p> <p>41 Significant growth suppression of synovial sarcomas by the histone deacetylase inhibitor FK228 in vitro and in vivo. (査読付)</p> <p>42 Genetic and epigenetic alterations of BRG1 promotes oral cancer development. (査読付)</p> <p>43 Fine deletional mapping of chromosome 4q22-35 region in oral cancer. (査読付)</p> <p>44 Single nucleotide polymorphisms in the EXO1 gene and risk of colorectal cancer in a Japanese population. (査読付)</p>
--	---

	<p>45 Frequent deletion and down-regulation of ING4, a candidate tumor suppressor gene at 12p13, in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>46 Single nucleotide polymorphism at codon 133 of the RASSF1 gene is preferentially associated with human lung adenocarcinoma risk. (査読付)</p> <p>47 Identification of a candidate tumor suppressor gene RHOB1 located at a novel allelic loss region 10q21 in head and neck cancer. (査読付)</p> <p>48 EP2/EP4-mediated suppression of antigen-specific human T cell responses by prostaglandin E2. (査読付)</p> <p>49 Single nucleotide polymorphism of the AXIN2 gene is preferentially associated with human lung cancer risk in a Japanese population. (査読付)</p> <p>50 Multiple splicing variants of Naf1/ABIN-1 transcripts and their alterations in hematopoietic tumors. (査読付)</p> <p>51 Role of prostaglandin D2 and E2 terminal synthases in chronic rhinosinusitis. (査読付)</p> <p>52 High frequent allelic loss of chromosome 6q16-23 in osteosarcoma: Involvement of cyclin C in osteosarcoma. (査読付)</p> <p>53 Fine deletion mapping of chromosome 2q21-37 shows three preferentially deleted regions in oral cancer. (査読付)</p> <p>54</p> <p>Oesophageal squamous cell cancer may develop within a background of accumulating DNA methylation in normal and dysplastic mucosa. (査読付)</p> <p>55 Single nucleotide polymorphism in the RAD18 gene and risk of colorectal cancer in Japanese population. (査読付)</p> <p>56 Loss or down-regulation of HLA class I expression at the allelic level in freshly isolated leukemic blasts. (査読付)</p> <p>57 Comprehensive loss of heterozygosity analysis and identification of a novel hotspot at 3p21 in salivary gland neoplasms. (査読付)</p> <p>58 The impact of epidermal growth factor receptor gene status on gefitinib-treated Japanese patients with non-small-cell lung cancer. (査読付)</p> <p>59 T75M-KCNJ2 mutation causing Andersen-Tawil syndrome enhances inward rectification by changing Mg²⁺ sensitivity. (査読付)</p> <p>60 The association between RAD18 Arg302Gln polymorphism and the risk of human non-small-cell lung cancer. (査読付)</p> <p>61 Down-regulation of ING3 mRNA Expression predicts poor prognosis in head and neck cancer. (査読付)</p> <p>62 Decreased expression of the SIN3A gene, a candidate tumor suppressor, located at the prevalent allelic loss region 15q23 in non-small cell lung cancer. (査読付)</p> <p>63 Involvement of EphA2 in head and neck squamous cell carcinoma: mRNA expression, loss of heterozygosity and immuno-histochemical studies. (査読付)</p> <p>64 Expression and mutation analysis of epidermal growth factor receptor (EGFR) in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付)</p> <p>65 Deletion mapping of chromosome 4q22-35 and identification of four frequently deleted regions in head and neck cancers. (査読付)</p> <p>66 Deletion at Dickkopf (dkk)-3 locus (11p15.2) is related with lower lymph node metastasis and better prognosis in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>67 Lack of B-RAF mutations in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付)</p> <p>68 Rasmussen encephalitis associated with SCN1A mutation. (査読付)</p> <p>69 Loss of heterozygosity at chromosome 14q is associated with poor prognosis in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>70 The allelic distribution of a single nucleotide polymorphism in the PDCD5 gene locus of Japanese non-small cell lung cancer patients. (査読付)</p> <p>71 Fine deletion analysis of 1p36 chromosomal region in oral squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>72 Down-regulation of TESTIN and its association with previous cancer history and poor survival in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>73 Frequent deletion of ING2 locus at 4q35.1 associates with advanced tumor stage in head</p>
--	--

	<p>and neck squamous cell carcinoma. (査読付)</p> <p>74 T-lymphocyte maturation-associated protein gene as a candidate metastasis suppressor for head and neck squamous cell carcinomas. (査読付)</p> <p>75 Increased mRNA expression of ADAMTS metalloproteinases in metastatic foci of head and neck cancer. (査読付)</p> <p>76 Frequent Allelic Loss of Dkk-1 Locus (10q11.2) is Related with Low Distant Metastasis and Better Prognosis in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas. (査読付)</p> <p>77 MET gene amplification or EGFR mutation activate MET in lung cancers untreated with EGFR tyrosine kinase inhibitors. (査読付)</p> <p>78</p> <p>REIC/Dkk-3 stable transfection reduces the malignant phenotype of mouse prostate cancer RM9 cells. (査読付)</p> <p>79 Accumulation of aberrant CpG hypermethylation by Helicobacter pylori infection promotes development and progression of gastric MALT lymphoma. (査読付)</p> <p>80 Loss of heterozygosity at the 9p21-24 region and identification of BRM as a candidate tumor suppressor gene in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付)</p> <p>81 Expression and Mutation Analysis of Her2 in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. (査読付)</p> <p>82 Missense polymorphisms of PTPRJ and PTPN13 genes affect susceptibility to a variety of human cancers. (査読付)</p> <p>83 Multi-step aberrant CpG island hyper-methylation is associated with the progression of adult T-cell leukemia/lymphoma. (査読付)</p> <p>84 Tumor-specific mutation and downregulation of ING5 detected in oral squamous cell carcinoma. (査読付)</p> <p>85 Identification of direct targets for the miR-17-92 cluster by proteomic analysis. (査読付)</p> <p>86 Liposomal Delivery of MicroRNA-7-Expressing Plasmid Overcomes Epidermal Growth Factor Receptor -Tyrosine Kinase Inhibitor-Resistance in Lung Cancer Cells. (査読付)</p>
学会及び社会における活動等	<p>Robertson Research Fund Award ロバートソン研究財団奨励賞 (NY州, アメリカ合衆国)</p> <p>日本分子生物学会 庶務幹事</p> <p>日本癌学会 評議員、編集委員</p> <p>日本がん分子疫学研究会 常任幹事</p>

教員名	保田立二	学位等	医師・医学博士	職名	教授
-----	------	-----	---------	----	----

担当科目	臨床栄養学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、健康管理論				
専門分野	医学				
最終学歴	昭和46年3月 昭和50年3月	岡山大学医学部卒業 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了(医学博士)			
これまでの主な経歴	昭和50年4月 昭和50年7月～ 昭和53年7月 昭和58年11月 昭和59年1月 昭和63年4月 平成元年7月 平成3年4月 平成9年4月 平成13年4月 平成17年4月 平成24年4月	東京大学医科学研究所細胞化学研究部 助手任官 米国ミズーリ州ワシントン大学留学 東京大学医科学研究所生物製剤試験製造施設 助教授 東京大学医科学研究所附属生物製剤試験製造施設長(昭和63年3月まで) 岡山大学医学部附属環境病態研究施設基礎環境病態学分野教授 岡山大学医学部附属環境病態研究施設長(平成3年3月まで) 岡山大学医学部附属分子細胞医学研究施設細胞工学部門教授 岡山大学医学部附属分子細胞医学研究施設長 岡山大学大学院医歯学総合研究科細胞化学分野教授 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科細胞化学分野教授 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授(現在に至る)			
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞膜の病態 基礎と臨床 2. 新免疫学叢書 12 免疫エンジニアリング 3. 人工酵素・生体膜デザイン 4. Non-isotopic immune assay 5. 微生物学実習提要 6. 高分子と医療 7. 最新動物細胞実験マニュアル 8. Recent Advances in Molecular ephrology <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Structural difference in sites on surface membrane of mature and immature erythrocytes. 2. Enhancement of encephalitogenic activity by the formation of myelin basic protein-brain acidic protein complex. (学位論文) 3. Immunogenicity of liposomal model membranes in mice: Dependence on phospholipid composition. 4. Immunogenic properties of liposomal model membranes in mice. 5. Enhancement of liposomal model membrane immunogenicity by incorporation of lipid A. 6. Primary in vitro immunogenicity of liposomal model membranes in mouse spleen cell cultures. 7. The effect of epitope density on the in vitro immunogenicity of hapten-sensitized liposomal model membranes. 8. A simple method to measure antiglycolipid antibody by using complement-mediated immune lysis of fluorescent dye-trapped liposomes. 9. Restriction of alternative complement pathway activation by sialosyl-glycolipids. 10. Regulation by glycophorin of complement activation via the alternative pathway 11. Biological activity of chemically synthesized analogues of lipid A. Demonstration of adjuvant effect in hapten-sensitized liposomal system. 12. Further study of biological activities of chemically synthesized analogues of lipid A in artificial membrane vesicles. 13. Analysis of the mode of antigen presentation required for triggering of T cell proliferation by using various azobenzenearsonate-tyrosine derivatives. 14. Treatment of experimental salmonellosis in mice with streptomycin entrapped in liposomes. 15. Antitumor effect of adriamycin entrapped in liposomes conjugated with anti-human 				

	<p>alpha-fetoprotein mono-clonal antibody.</p> <p>16. A simple and efficient liposome method for transfection of DNA into mammalian cells grown in suspension.</p> <p>17. Application of liposomes to generation of mono-clonal antibody to glycosphingolipid: Production of monoclonal antibody to GgOse4Cer.</p> <p>18. Forssman glycol-sphingolipid as an immunohistochemical marker for mouse stromal macrophages in hemopoietic foci.</p> <p>19. Location of membrane-bound hapten with different length spacers.</p> <p>20. Anticardiolipin antibodies recognize beta2-glycoprotein I structure altered by interaction with an oxygen modified solid phase surface.</p> <p>21. Identification of a unique antigen peptide pRL1 on BALB/c RLMale1 leukemia recognized by cytotoxic T-lymphocytes and its relation to the Akt oncogene.</p> <p>22. Gene transfer to the intraocular tissues by different routes of administration.</p> <p>23. Geranylgeranulated Rho small GTPase (s) are essential for the degradation of p27Kip1 and facilitate the progression from G1 to S phase in growth-stimulated rat FRTL-5 cells.</p> <p>24. An alteration of ganglioside composition in cisplatin-resistant lung cancer cell line.</p> <p>25. Impaired splenic erythropoiesis in phlebotomized mice injected with CL2-MDP-liposome: an experimental model for studying the role of stromal macrophages in erythropoiesis.</p> <p>26. A specific ligand for beta2-glycoprotein I mediates autoantibody-dependent uptake of oxidized low-density lipoprotein by macrophages.</p> <p>27. Anti-beta2-glycoprotein autoantibodies in atherosclerosis.</p> <p>28. The stimulatory action of amphiphysin on dynamin function is dependent on lipid bilayer curvature.</p> <p>29. Geranylgeranyl-pyrophosphate (GGPP) synthase is down-regulated during differentiation of osteoblastic cell line MC3T3-E1.</p> <p>30. Simvastatin induces the odontogenic differentiation of human dental pulp stem cells in vitro and in vivo.</p> <p>31. Alpha-tocopheryl succinate induces rapid and reversible phosphatidylserine externalization in histiocytic lymphoma through the caspase-independent pathway.</p> <p>32. Liposomal delivery of microRNA-7-expressing plasmid overcomes epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor-resistance in lung cancer cells.</p>
<p>学会及び社会 における活動 等</p>	<p>日本生化学会 評議員</p> <p>日本細菌学会 評議員</p> <p>日本脂質生化学会 幹事</p> <p>日本DDS学会 評議員</p>

教員名	狩山玲子	学位等	医学博士・薬剤師	職名	教授
-----	------	-----	----------	----	----

担当科目	微生物学、食品衛生学ⅠⅡ、食品衛生学実験、卒業研究Ⅰ	
専門分野	微生物学	
最終学歴	昭和50年3月	岡山大学医学部薬学科卒業
これまでの主な経歴	昭和50年4月 昭和52年4月 昭和58年10月 昭和61年5月 昭和61年10月 平成7年8月 平成11年4月 平成11年6月 平成13年1月 平成15年10月 平成16年4月 平成18年6月 平成19年4月 平成27年4月 平成29年4月 平成29年10月	岡山大学医学部細菌学教室 研究生 (昭和52年3月まで) 岡山大学医学部細菌学教室文部教官 助手 (昭和61年4月まで) 米国テンプル大学医学部 (Temple University School of Medicine) に ポストドク (Postdoctoral Research Associate) として留学 「腸球菌の溶菌に関する生化学的・免疫学的研究」(昭和61年4月まで) 米国テンプル大学医学部 Postdoctoral Research Associate (昭和61 年9月まで) 米国テンプル大学医学部 Research Assistant Professor (平成7年7 月まで) 岡山大学医学部泌尿器科 研究員 (平成11年3月まで) 米国シガン大学歯学部客員研究員として出張 (平成11年5月まで) 岡山大学医学部附属病院泌尿器科文部教官 助手 (平成12年12月まで) 岡山大学医学部附属病院泌尿器科文部科学教官 助手 (平成15年9月ま で) 岡山大学医学部・歯学部附属病院泌尿器科文部科学教官 助手 (平成16 年3月まで) 岡山大学医学部・歯学部附属病院泌尿器科 助手 (平成18年5月まで) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 助手 (平成19年3月 まで) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 助教 (平成27年3月 まで) 担当授業科目: 大学院研究方法論基礎 (臨床細菌学) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 准教授 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 教授 (現在に至る) 岡山大学医学部 非常勤講師 (細菌学) (現在に至る)
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Bacterial Growth and Lysis: Metabolism and Structure of the Bacterial Sacculus 2. バンコマイシン耐性菌戦略 Q&A. 3. ミュータンスレンサ球菌の臨床生物学 4. 全面改訂 バンコマイシン耐性菌戦略 Q&A 5. バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症ハンドブック 6. Q&A で読む細菌感染症の臨床と検査 7. 図説 臨床看護医学 8. 患者が求める「医療安全」「院内感染」対策 (学術論文) 1. ブドウ球菌脂質による Liposome の透過に対する Carotenoid の影響 2. Flagellar antigens of various species of the genus Vibrio and related genera. 3. ブドウ球菌 L-form 菌体の膜系脂質について 4. Colloid titration of heparin using Cat-Floc (polydiallyldimethyl ammonium chloride) as standard polycation. 5. 黄色ブドウ球菌の細胞壁脱落及び合成阻害に伴う脂質変化 6. Effect of glucose and oxygen on the structure of the plasma membrane of Staphylococcus aureus. 7. Lipid composition of Staphylococcus aureus and its derived L-forms. 8. ブドウ球菌膜脂質の環境変化及び壁欠落に伴う変動について 9. リン脂質ミセル構造の電子顕微鏡的観察 10. 壁欠落ともなう細胞膜リン脂質変動の物性論的検討 11. Increase of cardiolipin content in Staphylococcus aureus by the use of antibiotics affecting the cell wall. 12. Streptococcus pyogenes 124 株の L 型菌のリン脂質について 13. 黄色ブドウ球菌の壁欠落ともなう膜リン脂質組成変動のモデル解析 14. ファブリー病を疑われる一症例の生化学的同定について 	

	<p>15. Characterization of a glycophospholipid of <i>Streptococcus pyogenes</i>-derived L-form.</p> <p>16. The effect of head group structure on phase transition of phospholipid membranes as determined by differential scanning calorimetry.</p> <p>17. Properties of cell wall-associated DD-carboxypeptidase of <i>Enterococcus hirae</i> (<i>Streptococcus faecium</i>) ATCC 9790 extracted with alkali.</p> <p>18. Extracellular and cellular distribution of muramidase-2 and muramidase-1 of <i>Enterococcus hirae</i> ATCC 9790.</p> <p>19. Cloning and sequence analysis of the muramidase-2 gene from <i>Enterococcus hirae</i>.</p> <p>20. Modular design of the <i>Enterococcus hirae</i> muramidase-2 and <i>Streptococcus faecalis</i> autolysin.</p> <p>21. Evidence that the PBP5 synthesis repressor (psr) of <i>Enterococcus hirae</i> is also involved in the regulation of cell wall composition and other cell wall-related properties.</p> <p>22. Bacterial walls, peptidoglycan hydrolases, autolysins and autolysis.</p> <p>23. Penicillin resistance and autolysis in enterococci.</p> <p>24. In-vitro activity of the combination of ampicillin and arbekacin against high-level gentamicin-resistant enterococci.</p> <p>25. バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) の院内感染制御体制に関する報告－VRE 保菌患者の入院を経験して</p> <p>26. バンコマイシン耐性腸球菌検出法の検討 －同一病棟患者のサーベイランス－</p> <p>27. 尿路感染症由来 <i>Enterococcus faecalis</i> の分子疫学的検討</p> <p>28. VRE 定着患者を経験して</p> <p>29. In-vitro activity of arbekacin alone and in combination with vancomycin against gentamicin- and methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i>.</p> <p>30. Simple and reliable multiplex PCR assay for surveillance isolates of vancomycin-resistant enterococci.</p> <p>31. Efficacy of ampicillin plus arbekacin in experimental rabbit endocarditis caused by an <i>Enterococcus faecalis</i> strain with high-level gentamicin resistance.</p> <p>32. In-vitro synergistic activity of the combination of ampicillin and arbekacin against vancomycin- and high-level gentamicin-resistant <i>Enterococcus faecium</i> with the aph(2^{III})-Id gene.</p> <p>33. 尿路感染症由来 <i>Staphylococcus aureus</i> の毒素産生遺伝子の保有状況とその病原性について</p> <p>34. Identification of a Tn1546-like (type 2) element in vancomycin-resistant <i>Enterococcus faecium</i> isolated from hospitalized patients in Japan.</p> <p>35. Improved primer design for multiplex PCR analysis of vancomycin-resistant <i>Enterococcus</i> spp.</p> <p>36. MRSA 尿路感染症と Urosepsis －有熱化因子の基礎的・臨床的解析－</p> <p>37. 尿路感染症由来 <i>Enterococcus faecalis</i> の病原性因子に関する分子疫学的検討 －aggregation substance の病原的意義－</p> <p>38. VRE 感染症に対する併用療法の検討</p> <p>39. Description of a 23.9-kilobase chromosomal deletion containing a region encoding <i>fsr</i> genes, which mainly determines the gelatinase-negative phenotype of clinical isolates of <i>Enterococcus faecalis</i> in urine.</p> <p>40. Molecular epidemiological studies of <i>Staphylococcus aureus</i> in urinary tract infection.</p> <p>41. Evaluation of 15 motility media and a direct microscopic method for detection of motility in enterococci.</p> <p>42. 尿路感染症：新しいアプローチとその展開 乳酸菌膾坐剤の臨床的意義</p> <p>43. 岡山大学泌尿器科における MRSA 尿路感染症の臨床的背景と付着因子に関する検討</p> <p>44. バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) サーベイランスに有用な multiplex-PCR 法</p> <p>45. 尿路における <i>Enterococcus faecalis</i> の付着・定着・病原性に関する検討</p> <p>46. 尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィルムに対するフルオロキノロン系薬とホスホマイシンの併用効果</p> <p>47. 感染症における特殊な病態と対応－バイオフィルム感染症</p> <p>48. Decreased expression of REIC/Dkk-3 in human renal clear cell carcinoma.</p> <p>49. Biofilm formation among methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> isolates from patients with urinary tract infection.</p> <p>50. 尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィルム形成能と臨床的因子および薬剤感受性に関する検</p>
--	---

	<p>討</p> <ol style="list-style-type: none"> 51. ラット緑膿菌尿路感染症バイオフィームに対する prulifloxacin と fosfomycin の併用効果 52. Clinical implications of biofilm formation by <i>Enterococcus faecalis</i> in the urinary tract. 53. Synergistic effect of fosfomycin and fluoroquinolones against <i>Pseudomonas aeruginosa</i> growing in a biofilm. 54. 腎機能障害患者における doripenem の体内動態 55. 緑膿菌バイオフィームに対するフルオロキノロン系薬とホスホマイシンの併用効果 56. 腸球菌性尿路バイオフィーム形成に関する検討 57. Post-operative infection by pathogenic micro-organisms in the oral cavity of patients with prostatic carcinoma. 58. Synergistic effect of [10]-gingerol and aminoglycosides against vancomycin-resistant enterococci (VRE). 59. A pilot study evaluating the safety and effectiveness of <i>Lactobacillus vaginal</i> suppositories in patients with recurrent urinary tract infection. 60. Urinary excretion of anthocyanins in humans after cranberry juice ingestion. 61. Revised model for <i>Enterococcus faecalis</i> fsr quorum-sensing system: small open reading frame, fsrD, encodes GBAP propeptide corresponding to staphylococcal AgrD. 62. 人工呼吸回路による在宅呼吸管理を必要とする患者の感染管理の実態と気管内吸引関連物品の細菌汚染に関する検討 63. 気管内吸引カテーテルに付着した一般細菌の生菌数測定方法に関する検討 64. 再使用した気管内吸引カテーテルの走査型電子顕微鏡による観察 65. キャピラリーフローセルシステムにおける緑膿菌性バイオフィームに対する抗菌薬の有効性評価 66. 主として院内感染で問題となる耐性菌－腸球菌（臨床編） 67. 大腸菌性バイオフィーム形成抑制活性を有するクランベリー尿中代謝物の探索 68. Siamycin attenuates fsr quorum sensing mediated by a gelatinase biosynthesis-activating pheromone in <i>Enterococcus faecalis</i>. 69. Treatment of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> biofilms with a combination of fluoroquinolones and fosfomycin in a rat urinary tract infection model. 70. 緑膿菌性尿路感染症対策としての抗バイオフィーム剤探索とその基盤技術の開発 71. 尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィーム形成能と臨床的因子および薬剤感受性との関連性に関する検討 72. VIM-2 型メタロβラクタマーゼ産生 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> の分離状況と薬剤感受性 73. バンコマイシン耐性腸球菌（VanA 型 <i>Enterococcus faecalis</i>）のバイオフィーム形成能に関連する基礎的検討 74. 再使用した気管内吸引カテーテルの走査型電子顕微鏡による汚染状況の比較検討 75. バイオフィーム形成と尿路感染症の慢性化 76. Opr86 is essential for viability and is a potential candidate for a protective antigen against biofilm formation by <i>Pseudomonas aeruginosa</i>. 77. 誤嚥性肺炎患者の口腔内の状態と口腔ケアおよび口腔と吸引痰からの検出菌に関する実態調査 78. 緑膿菌性尿路感染症：どう対峙するか 79. メタロβラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィーム形成能と耐性遺伝子伝達性の検討 80. 尿路由来メタロβラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィーム形成能および分子疫学的検討 81. MDRP とバイオフィーム 82. Experimental and clinical studies on fluoroquinolone-insusceptible <i>Escherichia coli</i> isolated from patients with urinary tract infections from 1994 to 2007. 83. 気管内吸引を必要とする長期在宅療養患者に対する感染管理と口腔ケアの実態調査 84. メタロβラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィーム形成能および分子疫学的解析 85. リアルタイム in vivo イメージングシステムでの緑膿菌マウス大腿部感染モデルに対するピアペネムの有効性評価 86. メタロβラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィーム形成能および blaIMP-1 遺伝子の伝達性に関する検討 87. 気管内吸引カテーテル再使用時の洗浄および保管方法に関する検討 88. 泌尿器感染症とバイオフィーム 89. 重症心身障害者（児）の歯垢内日和見病原菌の検出状況を指標とした口腔ケアの評価
--	--

	<p>90. Epidemiology of Chlamydomphila caviae-like Chlamydia isolated from urethra and uterine cervix.</p> <p>91. 在宅ケアにおける気管内吸引カテーテル管理方法に関する長期介入</p> <p>92. 緑膿菌性尿路バイオフィーム in vivo 感染症モデルへのリアルタイムイメージング装置の応用性に関する検討</p> <p>93. 新規マイクロデバイスに形成された緑膿菌性バイオフィームの共焦点レーザー走査型顕微鏡観察</p> <p>94. バイオフィーム形成とクオラムセンシング</p> <p>95. 淋菌性尿道炎患者での咽頭における淋菌の分離状況に関する検討</p> <p>96. 緑膿菌性バイオフィーム形成阻害剤のスクリーニングにおける新規マイクロデバイスの有用性について</p> <p>97. 緑膿菌性尿路バイオフィーム in vitro 実験モデル系におけるコリスチンの有効性評価</p> <p>98. Development of novel methods for the search of antibiofilm agents.</p> <p>99. Prevalence of pharyngeal Chlamydia trachomatis and Neisseria gonorrhoeae among heterosexual men in Japan.</p> <p>100. 泌尿器科領域における緑膿菌感染症の特徴と新規治療法開発に向けた基礎的アプローチ</p> <p>101. 本邦で分離された多剤耐性アシネトバクター (<i>Acinetobacter baumannii</i>) のバイオフィーム形成能に関する検討</p> <p>102. バイオフィーム感染症に対する抗菌薬併用療法</p> <p>103. Assessment of change in biofilm architecture by nutrient concentration using a multichannel microdevice flow system.</p> <p>104. 緑膿菌ならびにアシネトバクターによるマウス大腿部感染モデルにおけるクオラムセンシング阻害剤と各種抗菌薬の併用効果</p> <p>105. マウスを用いた緑膿菌性尿路バイオフィーム感染症モデルの作製</p> <p>106. Molecular epidemiology and clinical implications of metallo-β-lactamase-producing <i>Pseudomonas aeruginosa</i> isolated from urine.</p> <p>107. 新規マウス薬効評価系の構築に向けた緑膿菌性尿路バイオフィーム感染症モデルの作製</p> <p>108. 緑膿菌バイオフィームに対する乳酸菌プロバイオティクスの基礎的検討</p> <p>109. 新規マウス薬効評価系の構築に向けた緑膿菌性尿路バイオフィーム感染症モデルの作製</p> <p>110. 緑膿菌バイオフィームに対する乳酸菌プロバイオティクスの基礎的検討</p> <p>111. Levofloxacin 500 mg 単回投与における前立腺組織移行性の検討</p> <p>112. 新規化合物が緑膿菌の抗菌薬抵抗性に及ぼす影響</p> <p>113. 泌尿器科領域における緑膿菌感染症の治療戦略—基礎的アプローチ</p> <p>114. バイオフィーム研究の最前線「先進的リアルタイムイメージング法によるクオラムセンシング阻害剤の作用機序の解明に向けて」</p> <p>115. Clinical analysis of bacterial strain profiles isolated from urinary tract infections: a 30-year study.</p> <p>116. A <i>Pseudomonas aeruginosa</i> quorum-sensing autoinducer analog enhances the activity of antibiotics against resistant strains.</p> <p>117. Role of psl Genes in Antibiotic Tolerance of Adherent <i>Pseudomonas aeruginosa</i>.</p> <p>118. Effects of an autoinducer analogue on antibiotic tolerance in <i>Pseudomonas aeruginosa</i>.</p>
<p>学会及び社会 における活動 等</p>	<p>American Society for Microbiology 会員</p> <p>日本化学療法学会 評議員</p> <p>日本感染症学会 評議員</p> <p>日本環境感染学会 会員</p> <p>日本バイオフィーム学会 理事</p> <p>日本臨床微生物学会 会員</p> <p>日本細菌学会 会員</p> <p>日本性感染症学会 会員</p> <p>緑膿菌感染症研究会 運営委員</p> <p>日本食品微生物学会 会員</p>

教員名	津村哲司	学位	農学修士	職名	准教授
-----	------	----	------	----	-----

担当科目	食品学各論実験ⅠⅡ、食品加工学実習、食品加工学ⅠⅡ、食品学各論、食品分析学				
専門分野	食品加工				
最終学歴	平成 3 年 3 月	香川大学大学院農学研究科食品学専攻修了（修第 295 号）			
これまでの主な経歴	平成 3 年 4 月	瀬戸内短期大学 食物栄養学科 助手（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論等）			
	平成 4 年 4 月	瀬戸内短期大学 食物栄養学科 講師（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論等）			
	平成 11 年 4 月	瀬戸内短期大学 食物栄養学科 助教授（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論食品学・生化学実験等）			
	平成 19 年 4 月	学校教育法の改正により准教授となる			
	平成 22 年 4 月	瀬戸内短期大学閉学により退職			
	平成 22 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科非常勤講師（食品学各論・同実験、食品加工学）「平成 26 年 3 月まで」			
	平成 22 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月	四国医療専門学校非常勤講師（栄養学） 香川短期大学非常勤講師（栄養学、生化学等）「現在に至る」 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任准教授「現在に至る」			
これまでの主な研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Production of D-psicose from D-taritol, D-tagatose or D-galactitol by <i>Alkalidenes</i> sp. 701B 2 <i>Pseudomonas cichorii</i> ST-24 株による D-galactitol あるいは D-tagatose からの D-sorbose の生産 3 <i>Fusarium solani</i> PM-1 の糖質に対する資化性に関する研究 4 「讃岐うどん」の嗜好性に関する分析的研究 5 学生を対象とした緑茶についての調査 6 アロエ・ベラ (<i>Aloe Barbadensis</i> Miller) の一般食品成分 7 病態別にみたさぬきうどんを含む理想的献立 8 ミラクルフルーツの錠剤食品への応用 9 ミラクルフルーツのタブレット化技術の改良について 10 ミラクリンを含む味覚修飾用可食性フィルムの開発 11 食生活改善に向けた新手法の開発-味覚教育からのアプローチ- 12 味覚教育が学生の食意識に及ぼす影響 13 ギムネマ 1 人 1 鉢栽培による味覚への意識向上-愛知中学校 2 年生での教育活動について- <p>（調査報告）</p>				
学会及び社会における活動等	<p>日本うどん学会 正会員 平成 17 年より理事 平成 22 年より監事「現在に至る」 日本味と匂学会 正会員「現在に至る」 日本食育学会 正会員「現在に至る」 （委員の委嘱又は社会における活動等） 四国 B 級ご当地グルメ連携協議会 幹事「現在に至る」</p>				

教員名	福野裕美	学位	修士（教育学）	職名	准教授
担当科目	教育原理、教育課程総論、社会教育計画、生涯学習概論、教育制度論、教育課程論 教師論、生涯学習概論、社会教育行政、保育内容総論、教職実践演習				
専門分野	教育学				
最終学歴	平成 23 年 3 月	筑波大学大学院博士後期課程人間総合科学研究科教育基礎学専攻単 位取得退学			
これまでの主な 経歴	平成 19 年 4 月 平成 20 年 8 月 平成 21 年 2 月 平成 22 年 4 月 平成 23 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 30 年 4 月	ティーチング・アシスタント（筑波大学）（平成 23 年 3 月まで） リサーチ・アシスタント（筑波大学）（平成 20 年 12 月まで） 土浦協同病院附属看護専門学校 非常勤講師 担当科目「教育学」（平 成 23 年 3 月まで） 日本学術振興会特別研究員（DC2）（平成 23 年 3 月まで） 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 助教 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 講師（平成 30 年 3 月まで） 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授（現在に至る）			
これまでの主な 研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 『要説 教育制度 新訂第二版』 『講座 日本の高校教育』 『認知的個性 違いが活きる学びと支援』 『要説 教育制度 新訂第三版』 『現代教育制度改革への提言/上』 <p>（学術論文）</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学業優秀者支援施策におけるアクセス拡大の取り組みに関する一考察—米国カリフォル ニア州のアドバンスト・プレイスメント・プログラムを事例として—」（修士論文） 「米国アドバンスト・プレイスメント・プログラムにおけるアクセス拡大に関する一考察 —全米レベルの取り組みに焦点をあてて—」 「米国カリフォルニア州のアドバンスト・プレイスメント・プログラムにおけるアクセス 拡大の取り組みと課題」 「米国 Advancement Via Individual Determination プログラムの起源に関する考察」 「平成 29 年改訂学習指導要領と階層間格差の問題—教育課程企画特別部会の議論に焦点を あてて—」 米国 AVID プログラムの実態の解明—カリフォルニア州サンディエゴ市のサン・インドロ 高校を事例として—」（査読付） <p>（その他）</p> <p>〈依頼原稿〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 「不利な状況にある生徒のための大学進学準備システム—米国の AVID プログラム—」 〈学会発表〉 「米国カリフォルニア州における AP プログラムのアクセス拡大施策の特質と課題—州教育 委員会・学区教育委員会・学校の取り組みに着目して—」 「米国アドバンスト・プレイスメント（AP）プログラムのアクセス拡大の支援方策—大学 進学準備プログラム（AVID Program）の内容に着目して—」 「イラン映画を通して考える教育制度の問題」 「米国 AVID プログラムの特質と課題 —カリフォルニア州サンディエゴ地区のサン・インドロ高校を事例として—」 「米国の不利な状況にある生徒を対象とした大学進学支援策の成立過程」 				
学会及び社会に おける活動等	日本教育制度学会 大学教育学会 筑波大学教育学会 日本教育学会、 アメリカ教育史研究会 日本比較教育学会				

教員名	村上祥子	学位等	修士(学術)・博士(医学) 管理栄養士免許・栄養教諭一種免許	職名	准教授
-----	------	-----	-----------------------------------	----	-----

担当科目	栄養教育論ⅠⅡ、栄養教育論実習ⅠⅡ、栄養教育管理、総合演習				
専門分野	栄養学、食物摂取頻度調査、食意識、栄養表示				
最終学歴	平成19年3月 平成21年3月 平成26年3月	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 卒業 高知女子大学(現 高知県立大学)大学院人間生活学科研究科 修了 香川大学大学院医学系研究科 社会環境病態医学専攻 修了			
これまでの主な経歴	平成11年6月 平成12年8月 平成13年4月 平成15年7月 平成16年4月 平成20年9月 平成21年4月 平成21年9月 平成22年9月 平成23年4月 平成27年4月 平成29年4月 平成30年4月	坂出市保健所、宇多津町役場で栄養相談、離乳食指導、わんぱく教室を随時行う 丸亀市養護老人ホーム「亀寿園」産育休代替栄養士 (平成12年7月まで) 飯山町(合併後 丸亀市)総合保健センター パート栄養士 (平成13年3月まで) 丸亀市第二学校給食センター 臨時栄養士 (平成15年3月まで) 国分寺町役場 食生活推進委員の育成指導と住民栄養相談(平成17年3月まで) 丸亀市中央学校給食センター 臨時栄養士 (平成17年3月まで) ヒューマンアカデミー高松校 フードコーディネーター養成講座 非常勤講師 (平成22年3月まで) フードコーディネーター養成講座閉鎖のため退職 香川県立中央病院栄養科 期間限定臨時管理栄養士 (平成21年7月まで) 坂出第一高等学校 「栄養学」非常勤講師 (平成26年3月まで) 中国短期大学総合生活学科「食品学」非常勤講師 (平成23年3月まで) 香川大学医学部衛生学TA(ティーチングアシスタント)(平成25年3月まで) 「社会医学実習」において、根拠のある栄養指導とは担当 山陽学園短期大学食物栄養学科 准教授 (平成29年3月まで) 「栄養学各論」「栄養学実習」「栄養指導実習1」「公衆栄養学」「子どもと食育」 「専門演習」「社会人入門」 香川大学教育学部 非常勤講師 特命准教授 (現在に至る) 「食物学」「栄養学」「食品学・調理学」「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」「初等家庭イ・ロ」「食生活論」「家庭科教育論」「小児栄養演習」 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 専任准教授(現在に至る)			
これまでの主な研究業績	(学術論文) 1. 香川県坂出、宇多津、高松、直島地域における光化学オキシダントを指標にした大気汚染の実態調査 2. Changes in temperatures in Okayama area compared with different urbanization areas, Japan (査読付) 3. Evaluation of nitrogen oxides pollution in Takamatsu and Utazu Area in Kagawa Prefecture, Japan (査読付) 4. Global warming was not proved at Showa Base in Antarctica (査読付) 5. Comparison of the changes in temperatures among rural, urban and metropolitan areas around the Inland Sea in Japan (査読付) 6. Air temperature was associated with ambulance transports in Osaka area, Japan (査読付) 7. Changes in air temperatures on mount Fuji, Japan (査読付) 8. Whether increases in ambulance transports is stratified by heat stroke in Fukushima prefecture, Japan in 2011? (査読付) 9. The higher air temperature was associated with higher ambulance transports due to				

	<p>heat stroke in elderly Japanese (査読付)</p> <p>10. Changes in climate parameters in Wakkanai area, which is located at most northern part in Japan (査読付)</p> <p>11. Changes in Air Temperature and Its Relation to Ambulance Transports Due to Heat Stroke in All 47 Prefectures of Japan (博士課程学位審査論文) (査読付)</p> <p>12. The relation between ambulance transports stratified by heat stroke and air temperature in August 2009, Japan: ecological study (査読付)</p> <p>13. The relation between ambulance transports due to heat stroke and air temperature using daily data in Okayama prefecture, Japan (査読付)</p> <p>14. 香川県大東川、御坊川の水質汚濁の実態調査</p> <p>15. 改装した建物内の気中ホルムアルデヒド・アセトアルデヒド濃度</p> <p>16. 早明浦地域における気候の変化</p> <p>17. 歩数と自動車保有台数に関する生態学的研究</p> <p>18. 香川県の野菜摂取量が少ないことに関する一考察</p> <p>19. 熱中症と気温との関連に関する生態学的研究 (その他)</p> <p>学会発表</p> <p>1. ONQI を用いた新しい食事栄養評価の試み</p> <p>2. ONQI を用いた新しい食事栄養評価の試み</p> <p>3. 香川県宇多津、高松地域における窒素酸化物 (NOx) を指標にした大気汚染の実態調査</p> <p>4. 香川県における NOx を指標にした大気汚染の実態調査</p> <p>5. 日本の温暖化の実態と熱中症による救急搬送との関連</p> <p>6. 短期大学学生の食物摂取量とストレスの関係</p> <p>7. 短期大学学生の食物摂取量とストレスの関係 第2報</p> <p>8. 短期大学学生の食物摂取量とストレスの関係 第3報</p>
<p>学会及び社会 における活動 等</p>	<p>日本栄養改善学会 日本公衆衛生学会 日本栄養・食糧学会</p>

教員名	井上恵子	学位等	準学士 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師
-----	------	-----	----------------------------	----	----

担当科目	学校栄養指導論ⅠⅡ、事前事後、栄養教育実習、教職実践演習				
専門分野	栄養学				
最終学歴	昭和 51 年 3 月	岐阜市立女子短期大学 食物栄養学科 卒業			
これまでの主な経歴	昭和 51 年 4 月 昭和 53 年 4 月 平成 元年 4 月 平成 7 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 20 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月 平成 28 年 4 月	(株)東京集団給食技術研究所(名古屋市)勤務(栄養士) 倉敷市役所 衛生局福祉部老人福祉課 養護老人ホーム倉敷市光風荘 勤務(栄養士) 倉敷市立帯江小学校 勤務(栄養技師) 倉敷市立万寿小学校 勤務(栄養技師) 倉敷市立天城小学校 勤務(栄養技師) 倉敷市立味野小学校 勤務(主任) 倉敷市立北学校給食共同調理場 勤務(主任) 倉敷市立庄学校給食共同調理場 勤務(主任)(平成 26 年 3 月まで) 倉敷市立沙美小学校・倉敷市立富田小学校新規採用学校栄養職員指導員(倉敷市教育委員会非常勤講師)(平成 27 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任講師(現在に至る)			
これまでの主な研究業績	(著書) 1.学校給食参考献立集(第22集) 2.学校給食参考献立集(第24集) 3.学校給食参考献立集(第26集) (報告書) 1.児童生徒の食生活日常生活習慣等の調査報告書				
学会及び社会における活動等	日本栄養改善学会 日本栄養士会会長表彰日本栄養士会の発展と国民栄養改善の進展に尽力 倉敷市有効者表彰倉敷市自治行政に貢献 学校給食関係功労者表彰多年にわたり学校給食の振興に多大な功績があった者				

教員名	中原真由美	学位等	準学士 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師
-----	-------	-----	----------------------------	----	----

担当科目	調理学ⅠⅡ、調理学実習ⅠⅡ、フードコーディネーター論、教職実践演習、卒業研究Ⅰ				
専門分野	調理学、栄養学				
最終学歴	昭和52年3月	島根県立島根女子短期大学 家政科 食物専攻 卒業			
これまでの主な経歴	昭和52年4月 昭和53年9月 昭和54年2月 昭和54年4月 昭和62年4月 平成8年4月 平成15年4月 平成19年4月 平成21年4月 平成24年4月	株式会社 栄養士 倉敷市立下津井中学校 臨時栄養士 倉敷市立児島中学校 臨時教諭(家庭科) 倉敷市立郷内小学校 栄養技師(食数1100) 倉敷市立連島南小学校 栄養技師(食数1300) 倉敷市立富田小学校 栄養技師(食数450) 倉敷市立茶屋町小学校 栄養技師(食数1250) 倉敷市立連島東小学校 栄養技師(食数750) 倉敷市保健所 生活衛生課 食品監視係長 食品衛生監視員 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師(現在に至る)			
これまでの主な業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地場産物利用推進モデル校実践のまとめ 2. 学校給食における食物アレルギー対応の手引 (学術論文) <ol style="list-style-type: none"> 1. SATシステムを使った献立作成スキルアップの活用法について 2. 本学学生およびその家族における、年中行事の認知状況と行事食の認知・経験状況の解析 3. 本学学生の家庭における雑煮の実態調査 4. 大学生の料理(食品)重量把握学習の取り組みの研究 調理学実習における目測推定トレーニングの効果の検討 5. 学生主体で行う調理講習会における学生の能力向上への取り組みと検証 (その他) <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般向け講習会(子育てカレッジ等)における料理教室の開催運営 2. 郷土料理の研究・開発(学生の卒業研究の題材) 3. 地産地消給食推進指定校に任命される。 4. 小学校教育研究会で倉敷東地区の研究授業公開 5. 夏期研修会で地産地消の取り組みの講演 6. ドライシステム調理場の衛生研究会の実施指定校 7. 家庭科の授業への専科教職員とのT.T授業の推進 8. 食品衛生責任者の講習会の講師 9. 出前講座の講師 10. 集団給食栄養士へ現場立ち入り時の衛生指導 11 保護者への給食の説明 12 食に関する指導の実施 13 FM おかやまに出演 14 栄養士臨地実習の受入 15 給食時間の放送 16 ノロウイルスについての講習会(幼児教育) 				
学会及び社会における活動等	日本栄養士会会員(現在に至る) 岡山県栄養士会会員(現在に至る) 調理科学会会員(現在に至る) 日本栄養改善学会会員(現在に至る) 岡山県栄養士会理事(現在に至る)				

教員名	高槻悦子	学位	準学士 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師
-----	------	----	----------------------------	----	----

担当科目	公衆栄養学ⅠⅡ、公衆栄養学実習、総合演習、公衆栄養臨地実習				
専門分野	公衆栄養学				
最終学歴	昭和55年3月	岡山県立短期大学 食物科 卒業			
これまでの主な経歴	昭和55年4月1日 平成3年6月16日 平成6年4月1日 平成13年4月1日 平成18年4月1日 平成22年4月1日 平成24年4月1日 平成27年4月1日	倉敷市役所 衛生局福祉部老人福祉課 養護老人ホーム倉敷市長楽荘勤務（栄養士） 倉敷学校給食共同調理場（栄養技師） 倉敷市立第一福田小学校（栄養技師） 倉敷市立多津美中学校（栄養技師） 学校教育部 学校保健課（現保健体育課）（学校給食係主任） 保健福祉局 倉敷市保健所健康づくり課 食育推進係係長 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師（平成27年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 特別専任講師（現在に至る）			
これまでの主な業績	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護老人ホーム入所者の嗜好カルテ作成 2 大規模調理場における給食指導の実践 3 各学年に応じた指導計画と実践 4 家庭科でのTT授業の実践 5 衛生指導時のATPふき取り検査と給食施設の衛生について 6 幼児期の食生活の現状からみた健診時の保護者への効果的な支援について 7 1歳6ヶ月児健康診査での効果的な指導について 8 老人クラブ会員の身体状況と食事摂取量および運動量に関する調査 保健福祉局倉敷市保健所健康づくり課食育推進係 （倉敷市食育推進計画の評価報告書、第二次倉敷市食育推進計画、第二次倉敷市食育推進計画平成23年度事業実施計画）				
学会及び社会における活動等	日本栄養士会会員（現在に至る） 日本栄養改善学会会員（現在に至る） 日本公衆衛生学会会員（現在に至る） 日本健康運動指導士会会員（現在に至る） 岡山県食の安全・食育推進協議会オブザーバー 倉敷市食育推進会議（事務局）倉敷市食育推進計画策定等幹事会（事務局） 倉敷市食育推進計画策定等幹事会（事務局）倉敷市栄養改善協議会理事会の事務局担当 栄養教室の開催と、栄養委員の育成 伝達講習会の支援				

教員名	佐藤幸枝	学位等	学士 管理栄養士免許 介護支援専門員 健康咀嚼指導士 在宅管理栄養士 日本慢性期医療協会「栄養サポートチーム研修会 NST 資格」 JDA-DAT(日本栄養士会災害支援チームリーダー)	職名	講師
-----	------	-----	---	----	----

担当科目	給食経営管理論ⅠⅡ、給食経営管理実習ⅠⅡ、事前事後、総合演習 給食経営管理臨地実習ⅠⅡ	
専門分野	摂食嚥下リハビリテーション	
最終学歴	昭和 56 年 3 月	同志社女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻課程卒業
これまでの主な経歴	昭和 56 年 4 月 昭和 58 年 4 月 平成 13 年 12 月 平成 30 年 4 月	(株)日食入社 栄養食品アドバイザー (昭和 58 年 3 月まで) 明治製菓(株) 栄養アドバイザー (昭和 60 年 12 月) 社会福祉法人薫風会 特別養護老人ホームみどり荘 管理栄養士主任 現在に至る 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科専任講師 (現在に至る)
これまでの主な研究業績	(その他) 1. 給食経営管理における集団給食の向上を目指して 2. 摂食嚥下機能の向上における給食の役割 3. 給食管理の品質を向上するためには 4. 給食経営管理における効率について 5. 給食経営管理実習における献立内容の検討 6. 給食管理のなかでの高齢者の食べたいを支える仕組みづくり	
学会及び社会における活動等	日本静脈経腸栄養学会 摂食嚥下リハビリテーション学会 日本在宅栄養管理学会 日本人間健康栄養協会 倉敷市長表彰 (栄養改善事業功労) 岡山県保健福祉部長表彰 (栄養改善事業功労)	

教員名	平野 聡	学位	学士（栄養学） 管理栄養士免許	職名	助教
-----	------	----	--------------------	----	----

担当科目	臨床栄養学実習、臨床栄養学Ⅲ、総合演習、臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養学演習	
専門分野	臨床栄養学	
最終学歴	平成 20 年 3 月	岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 卒業
これまでの主な経歴	平成 20 年 4 月 平成 22 年 5 月 平成 22 年 10 月 平成 22 年 11 月 平成 29 年 4 月	株式会社ザグザグ 株式会社富士薬品 医療法人社団島谷病院 管理栄養士 島谷病院副診療部栄養科 責任者 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 助教（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（その他） 1. 嚥下食の成形についての報告 2. 当院の食事提供への取り組み 3. 難治性下痢症状に対しペクチン含有濃厚流動食を使用した介入の報告	
学会及び社会における活動等	一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会、認定教育施設における臨床実地修練カリキュラム 修了、日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士認定試験 合格、日本体育協会からの依頼であるスポーツ栄養事業に携わる	

四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（4号関係）

（入学者に関する受入方針、入学者数、編入学者数、入学定員・収容定員、在学者数、在籍者数、卒業生数、進学者数、就職者数）

人間生活学部食物栄養学科

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- 管理栄養士の仕事を理解している。
- 卒業後、管理栄養士として職業に就く。
- 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- 生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

（令和元年5月1日現在）

入学者数	編入学者数	入学定員・収容定員	在学者数	在籍者数	卒業生数	就職者数	進学者数
37人	1人	40人・160人	114人	114人	26人	24人	0人

五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること（5号関係）

（シラバスや年間の授業の計画の概要）

人間生活学部食物栄養学科

教育課程編成・実施の方針

コアカリキュラムとサブカリキュラムを編成実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための科目をコアカリキュラムに編成する。また、同時に「食品衛生資格履修コース」をコアカリキュラムの中に科目指定する。特に授業においては、科目の専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果も獲得できるように実施する。更に、希望者に対して、栄養教諭一種免許状、フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書、社会教育主事任用資格などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。また、汎用的学習成果の獲得を支援する基礎教養科目も編成し、実施する。

シラバス

シラバスは次の作成規則により本学公式ウェブサイトで公開している。

シラバス作成規則

（趣旨）

第1条 この規則は、岡山学院大学及び岡山短期大学の教育方針に従い、各学科の教育課程（カリキュラム）の授業科目のシラバス（教育計画）の作成について定める。

（シラバスの様式）

第2条 シラバスの様式は様式-1のとおりとする。

（教育計画年度）

第3条 シラバスには年度表示して、使用する学生の入学年度を明確にする。

（科目名）

第4条 教育課程（カリキュラム）に編成されている授業科目名を記入する。

(授業回数・単位数)

第5条 当該授業科目の授業回数と単位数を記入する。

(担当教員)

第6条 授業科目を担当する教員名を記入し、学生からの質問受付の方法として e-mail アドレス及びオフィスアワーを記入する。

2 e-mail アドレスがない場合は無記入とする。

3 オフィスアワーの記入は、時間設定の代わりに在室時は何時でも可としてもよい。

(教育目標と学生の学習成果)

第7条 教育目標は教育課程編成・実施の方針及び学生の学習成果について明確に記入する。

(授業の進め方)

第8条 授業の進め方にある講義・演習・実験・実習・実技は、いずれかを四角で囲う。その際、別紙-1, 2の授業形態を参照する。

2 予習・復習は、1単位45時間の計算によって、講義：30時間、演習：15～30時間を課すよう授業時間以外の学習を加えること。

3 テキストの指定は授業内容に相応しいもので、高額にならないものを選択すること。

(学習評価の方法)

第9条 学習成果を明示し、「達成基準」ではなく、学習成果を測定する方法及び評価点の配点が学生に分かるよう記入する。

(注意事項)

第10条 参考図書等を記述し学生が学習しやすくする。

(授業回数別教育内容)

第11条 1回から15回の授業内容を記入する。

2 学習内容の箇条書きではなく、「何を学び何が出来るようになるか」について教育目標と学習成果の整合性を図って記入する。該当回の授業で何を学習したかを欠席者にも分かるように記入する。

3 定期試験を含まない。

日本国憲法	○		
生涯学習概論	○		
正しい日本語	○		
近代日本文学	○		
基礎化学	○		
基礎生物学	○		
情報リテラシー I		○	
情報リテラシー II		○	
英語 I		○	
英語 II		○	
体育理論	○		
体育実技			○
社会との接続 I		○	
社会との接続 II		○	
クラブ活動の活性化		○	
少子高齢化と諸問題	○		
社会福祉概論	○		
児童福祉概論	○		
ボランティア理論	○		
ボランティア活動		○	
社会心理学	○		
臨床心理学	○		

専門教育科目 授業形態

授業科目	講義	演習	実験 実習 実技
インターネットと法	○		
食物基礎科学	○		
プレゼンテーション		○	
生活史	○		
食文化論	○		
フードコーディネーター	○		
食料経済	○		
公衆衛生学 I	○		
公衆衛生学 II	○		
公衆衛生学 III	○		
健康管理論	○		
社会福祉概論	○		
解剖生理学 I	○		
解剖生理学 II	○		
解剖生理学実験 I			○
解剖生理学実験 II			○
運動生理学	○		
生化学 I	○		
生化学 II	○		

生化学実験			○
病理学	○		
微生物学	○		
食品学総論Ⅰ	○		
食品学総論Ⅱ	○		
食品学総論実験			○
食品学各論	○		
食品学各論実験Ⅰ			○
食品学各論実験Ⅱ			○
食品加工学Ⅰ	○		
食品加工学Ⅱ	○		
食品加工学実習			○
食品品質管理論	○		
食品分析学	○		
調理学Ⅰ	○		
調理学Ⅱ	○		
調理学実習Ⅰ			○
調理学実習Ⅱ			○
調理学実習Ⅲ			○
食品衛生学Ⅰ	○		
食品衛生学Ⅱ	○		
食品衛生学実験			○
基礎栄養学	○		
基礎栄養学実験			○
運動栄養学	○		
応用栄養学	○		
栄養アセスメント	○		
応用栄養学実習			○
栄養教育論Ⅰ	○		
栄養教育論Ⅱ	○		
栄養教育管理	○		
栄養教育論実習Ⅰ			○
栄養教育論実習Ⅱ			○
臨床栄養学Ⅰ	○		
臨床栄養学Ⅱ	○		
臨床栄養学Ⅲ	○		
臨床栄養学実習			○
臨床栄養学演習		○	
公衆栄養学Ⅰ	○		
公衆栄養学Ⅱ	○		
公衆栄養学実習			○
給食経営管理論Ⅰ	○		
給食経営管理論Ⅱ	○		
給食経営管理実習Ⅰ			○
給食経営管理実習Ⅱ			○
総合演習		○	
給食経営管理実習事前事後			○
給食経営管理臨地実習Ⅰ			○
給食経営管理臨地実習Ⅱ			○

公衆栄養臨地実習			○
臨床栄養臨地実習			○
卒業研究Ⅰ		○	
卒業研究Ⅱ		○	

教職課程(栄養教諭一種免許状) 授業形態

免許法施行規則に定める科目又は科目区分	授業科目	講義	演習	実験 実習 実技	
栄養に係る教育に関する科目	学校栄養指導論Ⅰ	○			
	学校栄養指導論Ⅱ	○			
第66条の6に定める科目	日本国憲法	○			
	体育	体育理論	○		
		体育実技			○
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ		○	
		英語Ⅱ		○	
	情報機器の操作	情報リテラシーⅠ		○	
		情報リテラシーⅡ		○	
	栄養・教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	○	
教師論			○		
教育制度論			○		
教育心理学			○		
特別支援の方法と理解			○		
教育課程論			○		
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳・特別活動・総合的な学習の時間	○		
		教育の方法及び技術(A)		○	
		教育の方法及び技術(B)		○	
		生徒指導論	○		
教育実践に関する科目		教育相談	○		
		事前・事後指導			○
		栄養教育実習			○
		教職実践演習(栄養教諭)			○

平成 31(2019)年度の年間の授業の計画

学年・学期・休業日

学年 4月1日～翌年3月31日

学期 前期 4月1日～9月10日, 後期 9月11日～翌年3月31日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業 3月21日～3月31日

夏期休業 8月1日～9月10日

冬期休業 12月22日～翌年1月7日

平成 31 (2019) 年度

前期 (4月1日～9月10日)		後期 (9月11日～3月31日)	
4月	4月1日入学式 4月2日～5日オリエンテーション (新入生) 4月2日授業開始 (新入生以外) 4月6日授業開始 (新入生) 4月8日～12日履修登録 (新入生以外) 4月12日～20日履修登録 (新入生)	10月	10月19日有城祭 10月27日短大開学記念日
5月	5月31日大学開学記念日	11月	11月13日学友会役員選挙
6月	6月29日後援会総会	12月	12月21日授業終了
7月	7月21日同窓会総会	1月	冬期休業12月22日～翌年1月7日 1月8日授業開始 1月23日～1月29日定期試験
8月	7月27日～8月2日定期試験	2月	
9月	9月2日～9月6日オリエンテーション期間 9月11日後期授業開始 9月17日～9月22日履修登録	3月	3月19日卒業式 春期休業 3月21日～3月25日 (学則では31日) 3月26日～3月30日オリエンテーション (在学生)

六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たつての基準に関すること（6号関係）

（必修科目、選択科目及び自由科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位）

人間生活学部食物栄養学科

卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

修業年限：4年

卒業の要件

総修得単位 124 以上

イ) 学部共通基礎教養科目については、22 単位以上。

ロ) 学科専門科目については、70 単位以上。

管理栄養士国家試験受験資格については「専門基礎分野」38 単位、「専門分野」44 単位の総単位数 82 単位最低限必要。

現場に即応する管理栄養士になるため、学科の教育課程（学部共通基礎教養科目および専門教育科目）の学習をとおして、管理栄養士としての学習成果を保証する教育課程の科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

- 1 学位授与に必要な単位を修得している。
- 2 卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること（7号関係）
（キャンパス概要、運動施設概要及びその他の学習環境、主な交通手段等）

新幹線を利用すれば、広島からも大阪からも1時間程度。
倉敷市周辺は、東西南北の高速自動車道が交差し、
山陰、山陽、四国のどこからでもアクセスが整っています。



岡山学院大学・岡山短期大学 キャンパス平面図



八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること（8号関係）

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科

学費は1年を2期に分けて1期分（半年分）を每期開始後10日以内に前納するものとする。

平成31年度学費一覧表				
種別	納入時期	入学手続き時	毎学年度	
			前期	後期
入学金		250,000円		
授業料			245,000円	245,000円
教育充実費			150,000円	150,000円
施設設備費			75,000円	75,000円
合計		250,000円	470,000円	470,000円

以上の外に、下表の金額が必要である。なお諸費変更の場合、在学生にも新規金額を適用する。

後援会費	37,000円（毎年）
卒業寄附	（一口任意）一口20,000円
学友会費	8,000円（毎年7,000円＋入会金1,000円）

（入寮希望者は、入学志願票の所定欄に記入のこと。）女子寮のみ

学寮	定員	設備	部屋の使用
椿寮	50名（女子）	部屋にエアコン・机・本棚・ワードローブ・ベッド・洗面化粧台等を備えている。 インターネット：NTTおよび各プロバイダと個人契約でインターネットが利用できる。 テレビの持ち込みはできない。	一部屋一人

平成31年度寮費一覧表				
種別	入寮費（入寮時）	寮費（月額）	食費（1日2食・月額）	厚生費（月額）
椿寮	47,000円	29,200円	27,600円	1,000円

1. 物価の変動により変更することがある。 2. 冷暖房費は別に臨時徴収する。
3. 昼食は学内食堂を利用する。 4. 下水道使用料を別途徴収する。

九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること（9号関係）

学生相談室

メンタルケアやカウンセリング体制については学生相談室がある。本学学生の個人的諸問題について相談に応じ、援助を行うことを目的とするもので、入学式直後のオリエンテーションで概要を毎年告知している。構成員はカウンセラー及び相談員である。利用可能な日時は年度・学期ごとに掲示によって告知し、利用方法に関しては全学生に対して新年度オリエンテーションにおいてカウンセラーが特別に説明している。以上のことは学生便覧に詳述され、学生はいつでも読むことが出来る。運営に関しては学長とカウンセラー及び相談員が連携をとっている。

休養室

学生の保健衛生管理を目的として休養室を設置している。休養室は、学務課学生係が管理・運営している。学生の身体状況に応じ、本学教員の医師に相談の上、外来受診等に供する場合も生じる。

本学の校医は財団法人倉敷成人病センターの健診センター長にお願いしているので入学後の健康診断の結果も当センターに依頼し学生の実習等における健康診断書の発行も本学で行っている。

生活指導担当教員および環境衛生担当教員

本学では教員の中から任命された生活指導担当教員により生活指導部が構成され、学生の心身ともに健康な生活支援を行っている。また、同様に任命された環境衛生担当教員で構成する環境衛生部は学内の清掃と美化に努め、学内の規律を保つための厚生補導に努める。このことは入学式直後の新入生オリエンテーションや新学期の新2、新3、新4年次生へのオリエンテーションでも生活指導部および環境衛生部は学生に対し呼びかけ、注意を促すのが通例である。

学友会

学友会は各クラブの統括だけでなく、健全で規律ある学生生活の発展にも寄与する任務がある。特に厚生部は各クラスから選出される評議員と各学科教員から1人ずつ任命される顧問によって構成され、学生の意見を広く汲み上げる部門であり、学園のために貢献してきた歴史がある。

食物栄養学科キャリア支援室

大学の専任教員が担当者となって編入学、公務員試験をはじめとする一般職の就職相談及び就職指導などキャリア支援をしている。

情報処理教育センター

自由に使えるPCを配置し、授業以外の時間帯における学生の情報処理学習を支援している。

多くの学生が Web 検索や、レポート作成などに利用している。

図書館

図書のレファレンスサービスの他に貸し出し用ノート P が利用できるようにしてありインターネットを介しての情報学習もできるように配慮している。

経済的支援

日本学生支援機構の奨学金「第一種奨学金」「第二種奨学金」を希望する学生に対し、学年始めのオリエンテーション時に学務課学生係が制度の説明から書類作成手続き及び学生生活の指導(特に経済面)までを行っている。

本学独自の奨学金制度としては「岡山学院大学特別奨学生」の制度がある。これは特別推薦選抜に合格し入学手続きを完了した者で、特別奨学生を希望する者の中から学業優秀者を選抜し、在学中の授業料半額免除を可能にしている。

また家庭の事情などにより在学中に授業料納付が困難になった学生の申し出により成績・人物を審査し、合格者を優待生として授業料の半額免除を実施する「岡山学院大学A種奨学生」がある。

経済的支援体制としてのアルバイト紹介などの業務を学務課学生係が行っている。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（学校教育法施行規則第172条2第2項関係）

人間生活学部食物栄養学科

学習成果

本学科で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」のもと、自律した信念のある社会人となることであり次の専門的学習成果と汎用的学習成果を獲得するものである。

I. 専門的学習成果

学科の専門学習では、現場に即応する管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識、②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力、④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

また、学習支援を行う教員とのコミュニケーションをとおして、①栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解でき、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解できる力、②職業生活や社会生活に必要な数量的スキルや情報リテラシー、③職業生活や社会生活でも必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーションの能力として自己表現力、論理的思考力、問題解決力、他者理解力、④社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。